

# 稲作と中国文明－総合稲作文明学の新構築－

領域番号 1701

平成 27 年度～令和元年度  
科学研究費助成事業（科学研究費補助金）  
（新学術領域研究（研究領域提案型））  
研究成果報告書

令和 5 年 6 月

領域代表者 中村慎一  
金沢大学 その他部局等 その他

## はしがき

中国は世界最古の稲作発祥地である。考古遺物という同時代資料から見て、長江流域においてもっとも早くイネの栽培化が始まったことはもはや疑う余地がない。中国で野生イネの利用が始まり、栽培化が達成されるまでの過程では、急速な温暖化にともなう海面上昇等、環境は目まぐるしく変化した。稲作は、その大変動を乗り越えるための生活様式変革の産物と言える。

古来、長江流域は中国最大の穀倉地帯であり、そこで生産される米なくしては膨大な人口を支える術は他になかった。「江浙熟すれば天下足る」、「湖広熟すれば天下足る」と言ったように、政治の中心は黄河流域にあったとしても、経済的には長江流域が国家の命運を握っていたのである。このように見ると、1) 稲作とは、空前絶後の天変地異に見舞われた中国大陸の先史人が、それを逆手にとって成し遂げた一大イノベーションであり、2) 水田栽培という特異な栽培形態が、肥料供給、塩分除去、雑草防除、保温などの効果をもっていたことで、長期にわたる稲作民社会の持続的発展が可能となり、3) 中国文明の強靱なレジリエンスもまた、長江流域の稲作地帯が背後に控えていて初めて達成され得たのではないかと推測されたのである。

領域代表者は過去 30 年にわたり長江流域を中心とする中国考古学の研究に従事してきた。近年、良渚遺跡群をはじめとする多くの遺跡で重要な発見が相次いでいる。そこで、30 年にわたる研究の蓄積に近年の重大発見から得られた知見を新たに加えることで、この地域における完新世の人類適応の全体像を解き明かすことができると考えた。そこで、上記 3 点の見通しの下、中国稲作文明への理解を飛躍的に進展させ、新たな学術領域としての「総合稲作文明学」を創成すべく研究に取り組んできた。本報告書はその研究成果の概要を取りまとめたものである。

## 研究組織

〈総括班〉

### 研究代表者

中村慎一（金沢大学・歴史言語文化学系・教授）

### 研究分担者

金原正明（奈良教育大学・理科教育講座・教授）

細谷葵（金沢大学・国際文化資源学研究センター・客員准教授）

宇田津徹朗（宮崎大学・農学部・教授）

米田穰（東京大学・総合研究博物館・教授）

有村誠（金沢大学・新学術創成研究機構・准教授）

〈国際活動支援班〉

### 研究代表者

中村慎一（金沢大学・歴史言語文化学系・教授）

### 研究分担者

細谷葵（金沢大学・国際文化資源学研究センター・客員准教授）

米田穰（東京大学・総合研究博物館・教授）

〈計画研究 A01〉

### 研究代表者

中村慎一（金沢大学・歴史言語文化学系・教授）

### 研究分担者

小柳美樹（金沢大学・人間社会研究域・客員研究員）

榎林啓介（愛媛大学・アジア古代産業考古学研究センター・准教授）

楊平（滋賀県立琵琶湖博物館・研究部・主任学芸員）

秦小麗（金沢大学・国際文化資源学研究センター・客員教授）

吉開将人（北海道大学・文学研究院・教授）

神谷嘉美（金沢大学・歴史言語文化学系・助教）

有村誠（金沢大学・新学術創成研究機構・准教授）

### 研究協力者

劉斌、孫国平、王寧遠、趙曄（浙江省文物考古研究所）

秦嶺（北京大学）

林留根（南京博物院）

浦蓉子、西原和代（奈良文化財研究所）

鶴来航介（福岡市埋蔵文化財課）

東村純子（福井大学）

桃井宏和（元興寺文化財研究所）

原田幹（愛知県教育委員会）

山下優介、川崎雄一郎

〈計画研究 A02〉

**研究代表者**

金原正明（奈良教育大学・理科教育講座・教授）

**研究分担者**

丸山真史（東海大学・海洋学部・准教授）

菊地大樹（総合研究大学院大学・先端科学研究科・特別研究員）

渡部展也（中部大学・人文学部・准教授）

鈴木三男（東北大学・学術資源研究公開センター・名誉教授）

黒住耐二（千葉県立中央博物館・その他部局等・研究員（移行））

小畑弘己（熊本大学・大学院人文社会科学研究部（文）・教授）

熊谷真彦（国立研究開発法人農業・食品産業技術総合研究機構・高度解析センター・主任研究員）

〈計画研究 A03〉

**研究代表者**

小林正史（北陸学院大学・人間総合学部（社会学科）・教授）

細谷葵（金沢大学・国際文化資源学研究センター・客員准教授）（2019年7月まで）

**研究分担者**

庄田慎矢（独立行政法人国立文化財機構奈良文化財研究所・都城発掘調査部・主任研究員）

村上由美子（京都大学・総合博物館・准教授）

大川裕子（日本女子大学・文学部・研究員）

西田泰民（新潟県立歴史博物館・その他部局等・参事）

小林正史（北陸学院大学・人間総合学部（社会学科）・教授（移行））

〈計画研究 A04〉

**研究代表者**

宇田津徹朗（宮崎大学・農学部・教授）

**研究分担者**

田崎博之（愛媛大学・埋蔵文化財調査室・教授）

田中克典（弘前大学・農学生命科学部・助教）  
石川隆二（弘前大学・農学生命科学部・教授）  
上條信彦（弘前大学・人文社会科学部・准教授）

#### 研究協力者

劉斌、鄭雲飛、王寧遠（浙江省文物考古研究所）  
王才林、湯陵華、趙春芳（江蘇省農業科学院・糧食作物研究所）

〈計画研究 A05〉

#### 研究代表者

米田穰（東京大学・総合研究博物館・教授）

#### 研究分担者

澤田純明（新潟医療福祉大学・リハビリテーション学部・准教授）  
岡崎健治（鳥取大学・医学部・助教）  
宮田佳樹（東京大学・総合研究博物館・特任研究員）  
申基 Chol（総合地球環境学研究所・研究基盤国際センター・准教授）  
渋谷綾子（国立歴史民俗博物館・大学共同利用機関等の部局等・特任助教）

#### 研究協力者

板橋悠、佐伯史子、米元史織、高向浩史、鶴澤和宏、山口晴香、富田啓貴、申亜凡、易  
冰、宗殷、オーレット トリシア

#### 公募研究

〈稲作農耕社会の発展を背景とした人とカモ科鳥類の関係史〉

研究代表者 江田真毅（北海道大学・総合博物館・講師）

〈同位体化学的手法に基づく新石器時代の長江下流域におけるヒトの移動性復元〉

研究代表者 覚張隆史（金沢大学・国際文化資源学研究センター・特任助教）

〈古代長江下流域における開発空間の歴史的考察〉

研究代表者 大川裕子（日本女子大学・文学部・研究員）

〈中国の新石器時代に出土した漆遺物を対象とする自然科学的検討と工芸技術史の融合〉

研究代表者 神谷嘉美（明治大学・研究・知財戦略機構・客員研究員）

〈長鎖脂肪酸の同位体比を用いた完新世長江下流域の乾湿および植生変動の復元〉

研究代表者 山本正伸（北海道大学・地球環境科学研究所・教授）

〈稲作農耕社会の発展を背景とした家禽利用の変化の解明〉

研究代表者 江田真毅（北海道大学・総合博物館・准教授）

〈中国文明構築に関与した水生作物の人為淘汰に関する研究〉

研究代表者 山岸洋貴（弘前大学・農学生命科学部・助教）

〈墓からみた良渚文化の社会構造研究〉

研究代表者 久保田慎二（熊本大学・大学院人文社会科学部附属国際人文社会科学  
研究センター・准教授）

〈中国と日本の先史時代における編物の変遷の比較考古学的研究〉

研究代表者 松永篤知（金沢大学・資料館・特任助教）

〈高感度質量分析計を用いた遺跡出土品のメタボローム解析による多様な食品利用の復  
元〉

研究代表者 西内巧（金沢大学・学際科学実験センター・准教授）

〈I o T技術を用いた超小型歯エナメル質自動前処理装置の開発とその応用〉

研究代表者 覚張隆史（金沢大学・国際文化資源学研究センター・助教）

〈中国新石器時代集団の四肢骨の形態解析に基づく初期稲作農耕文化の実態解明〉

研究代表者 高椋浩史（九州大学・アジア埋蔵文化財研究センター・学術研究者）

## 交付決定額（配分額）

年度	合計	直接経費	間接経費
平成 27 年度	98,930,000 円	76,100,000 円	22,830,000 円
平成 28 年度	98,280,000 円	75,600,000 円	22,680,000 円
平成 29 年度	107,770,000 円	82,900,000 円	24,870,000 円
平成 30 年度	103,870,000 円	79,900,000 円	23,970,000 円
令和元年度	99,190,000 円	76,300,000 円	22,890,000 円
合計	508,040,000 円	390,800,000 円	117,240,000 円

## 研究発表

### 1. 雑誌論文

〈A01 計画研究〉計 44 本（内査読有 11 本）

- Tanaka Katsunori, Zhao Chunfang, Wang Ningyuan, Kubota Shinji, Kanehara Masaaki, Kamijo Nobuhiko, Ishikawa Ryuji, Tasaki Hiroyuki, Kanehara Minako, Liu Bin, Chen Minghui, Nakamura Shin-ichi, Udatsu Tetsuro, Wang Cailin. Classification of archaic rice grains excavated at the Mojaoshan site within the Liangzhu site complex reveals an Indica and Japonica chloroplast complex. *Food Production, Processing and Nutrition* 2, doi: 10.1186/s43014-020-00028-8, 2020, 査読有
- 吉開将人「中国近代学術史上の良渚考古学－中国文明多元論、“長江文明論”の歴史的系譜」『河姆渡と良渚：中国稲作文明の起源』（雄山閣），89-100，2020，査読無
- 楊平「複合生態農業システムからみる中国の農耕文明」『河姆渡と良渚：中国稲作文明の起源』（雄山閣），179-187，2020，査読無
- 原田幹・榎林啓介「長江下流域における新石器時代の収穫具とその独自性」『河姆渡と良渚：中国稲作文明の起源』（雄山閣），275-284，2020，査読無
- 秦小麗・中村慎一「玉器生産からみた良渚文化期の社会」『河姆渡と良渚：中国稲作文明の起源』（雄山閣），169-178，2020，査読無
- 中村慎一「中国稲作文明の起源」『河姆渡と良渚：中国稲作文明の起源』（雄山閣），353-365，2020，査読無
- 小柳美樹「復原石犁の実験」『河姆渡と良渚：中国稲作文明の起源』（雄山閣），295-304，2020，査読無
- 小柳美樹「石製農耕具からみた長江下流域稲作農耕の成立」『河姆渡と良渚：中国稲作文明の起源』（雄山閣），262-274，2020，査読無
- 小柳美樹「副葬過濾器からみた良渚墓制の成立過程」『日々の考古学III』，233-245，2020，査読無
- 神谷嘉美「田螺山遺跡・良渚遺跡群出土漆器のモノづくり技術」『河姆渡と良渚：中国稲作文明の起源』（雄山閣），150-160，2020，査読無
- 吉開将人「溥儀の悲憤－「宣統十六年」の紫禁城」『かなしむ人間－人文学で問う生き方』，131-167，2019，査読無
- 久保田慎二・宮田佳樹・小林正史・孫国平・王永磊・中村慎一「河姆渡文化の副食調理土器－学際的手法によるアプローチ」『古代』154：37-54，2019，査読有
- Kiiti Takahashi・YangPing「動物群之奥妙」『化石』1：49-53，2019，査読無
- 秦小麗「伝統的なミュージアムにおけるコレクション、展示、フィールドリサーチ」



- 『金沢大学文化資源学研究』21 : 15-21, 2019, 査読無
- 秦小麗・中村慎一「新石器時代後期の黄河流域における長江系玉器の拡散－山西省清涼寺墓地と陶寺墓地の分析を中心として－」『中国考古学』18 : 53-71, 2019, 査読有
  - 榎林啓介「書評 原田幹著「東アジアにおける石製農具の使用痕研究」」『考古学研究』65 (2) : 30-32, 2018, 査読無
  - 秦小麗「中国における文化資源の保存と活用－高度経済成長期の文化資源保存と活用－」『博物館学集報』5 : 45-50, 2018, 査読無
  - 原田幹「実験石犁の使用痕分析－牽引実験と出土資料との使用痕の比較－」『金沢大学考古学研究紀要』39 : 45-60, 2018, 査読無
  - 松永篤知「自然界に見る編み－編物起源解明の手がかりとして－」『金沢大学考古学研究紀要』39 : 61-66, 2018, 査読無
  - 久保田慎二「下七垣文化研究の現状と課題」『大貫静夫先生退職記念論文集』, 81-100, 2018, 査読無
  - Hosoya, L.A., M. Kobayashi, S. Kubota, G.Sun. Rice and the Formation of Complex Society in East Asia: Reconstruction of Cooking Through Pot Soot- and Carbon-deposit Pattern Analysis. *Far from the Hearth Essays in Honour of Martin K. Jones*. 127-144, 2018
  - N. Watanabe, S. Nakamura, B. Liu, N. Wang. Utilization of Structure from Motion for processing CORONA satellite images: Application to mapping and interpretation of archaeological features in Liangzhu Culture, China. *Archaeological Research in Asia* 11: 38-50, doi: 10.1016/j.ara.2017.06.001, 2017, 査読有
  - 秦小麗「北米の博物館と博物館学－カナダのロイヤルオンタリオ博物館を事例として－」『博物館学集報』4 : 43-47, 2017, 査読無
  - 秦小麗「中国初期国家形成過程中的牙璋及其意義」『中原文化研究』4 : 85-94, 2017, 査読有
  - 秦小麗・中村慎一・孫国平・王永磊「管珠類から見た中国東部地区の玉器生産技術変化とその意義」『中国考古学』17 : 1-27, 2017, 査読有
  - 榎林啓介「中国新石器時代長江流域農業景観的変遷」『探求環境問題解決之道－人と自然和諧共存』, 112-123, 2017, 査読無
  - 久保田慎二・小林正史・宮田佳樹・孫国平・王永磊・中村慎一「河姆渡文化における煮沸土器の使い分けと調理に関する学際的研究」『中国考古学』17 : 73-92, 2017, 査読有
  - Shinji Kubota, Hirofumi Matsumura. Morphometric records of Huiyaotian Human Teeth. *Bio-Anthropological studies of early Holocene Hunter-Gatherer sites at Huiyaotian and Liyupo in Guangxi, China*, 85-88, 2017, 査読無
  - Shinji Kubota, Hirofumi Matsumura. Morphometric records of Liyupo Human Teeth. *Bio-Anthropological studies of early Holocene Hunter-Gatherer sites at Huiyaotian and Liyupo*

in Guangxi, China, 145-148, 2017, 査読無

- Shinji Kubota, Hirofumi Matsumura. The origin of early Holocene Hunter-Gatherer at Huiyaotian and Liyupo in Guangxi, Southern China: Odontometric Perspective. *Bio-Anthropological studies of early Holocene Hunter-Gatherer sites at Huiyaotian and Liyupo in Guangxi, China*, 171-180, 2017, 査読無
- 中村慎一・劉斌・王寧遠「中国浙江省良渚遺跡群」『考古学研究』64(2):109-111, 2017, 査読有
- 鈴木三男・孫国平・鄭雲飛・中村慎一「中国浙江省田螺山遺跡から出土したイチョウの木製品」『植生史研究』26(2):75-78, 2017, 査読有
- Dongdong Wang, Shin'ichi Nakamura. Case Studies in Large-Scale Archaeological Site Conservation and Management in China : The Liangzhu, Yin Xu, and Han Yangling Sites. *Historia: Quaestiones e Debates* 66(1): 113-140, 2017, 査読有
- 植林啓介「稲作出現地とその周辺部への伝播の様相ー長江流域を例として」『平成28年度瀬戸内海考古学研究会大会予稿集』, 1-10, 2017, 査読無
- 秦小麗「二里头文化時期的陶器拡散以及背景」『《玉器与王権的誕生》国際学術会議論文集』, 2017, 査読無
- 小柳美樹「石犁からみた崧澤、良渚の農耕社会」『「中国新石器時代崧澤文化期における稲作農耕の実態研究」(科学研究費基盤研究(B)研究成果報告書)』, 75-80, 2017, 査読無
- 原田幹「復元石犁の使用痕分析ー牽引実験による使用痕と出土資料との比較ー」『「中国新石器時代崧澤文化期における稲作農耕の実態研究」(科学研究費基盤研究(B)研究成果報告書)』, 93-108, 2017, 査読無
- 中村慎一「中国稲作文明の起源を探る」『日本学術会議中部地区会議ニュース』141: 6-8, 2016, 査読無
- Qin Xiaoli. Turquoise Ornaments and Inlay Technology in Ancient China. *Asian Perspectives: the Journal of Archaeology for Asian and the Pacific* 55(2): 208-239, doi: 10.1353/asi.2016.0019, 2016, 査読有
- 吉開将人「「チク鹿」の歴史は誰のものかー「炎黄」顕彰問題と二十世紀末中国民族主義の諸相」『北海道大学文学研究科紀要』150: 1-75, doi: 10.14943/bgsl.150.r1, 2016, 査読無
- 小柳美樹「從“石犁”看崧澤、良渚的農業社会」『崧澤文化学術研究会論文集』, 278-283, 2016, 査読無
- 中村慎一「良渚文化期の農業と良渚遺跡群」『「長江下流域における基盤整備型水田の成立期に関する学際的研究」平成24年度～平成27年度科学研究費補助金(基盤研究(B)国際学術調査)成果報告書』, 1-4, 2016, 査読無
- 久保田慎二「劉莊遺跡からみた下七垣文化の社会構造」『東京大学考古学研究室研究

紀要』30：33-67, 2016, 査読無

- 小柳美樹「良渚遺跡群における農耕社会」『「長江下流域における基盤整備型水田の成立期に関する学際的研究」平成24年度～平成27年度科学研究費補助金（基盤研究（B）国際学術調査）成果報告書』, 97-116, 2016, 査読無

〈A02 計画研究〉計18本（内査読有6本）

- 小畑弘己「田螺山遺跡発見のコクゾウムシ属圧痕」『河姆渡文化と良渚』, 111-118, 2020, 査読無
- 鈴木三男「田螺山遺跡出土「イチョウ」の木材、その意味」『河姆渡文化と良渚』147-149, 2020, 査読無
- 菊地大樹「中国新石器時代長江下流域の動物利用」『河姆渡文化と良渚』, 215-223, 2020, 査読無
- 丸山真史「田螺山遺跡における魚類利用」『河姆渡文化と良渚』, 224-227, 2020, 査読無
- 渡部展也「衛星からみた良渚囲壁と塘山土塁」『河姆渡文化と良渚』, 45-56, 2020, 査読無
- Masaki Eda, Hiroki Kikuchi, Guoping Sun. Were chickens exploited in the Neolithic early rice cultivation society of the lower Yangtze River?. *Archaeological and Anthropological Sciences* 11: 1-8, 2019, 査読有
- 菊地大樹「海外の動向 中国」『季刊考古学』144：65-68, 2018, 査読無
- 小畑弘己「円筒土器文化の栽培植物と家屋害虫－青森県三内丸山遺跡における圧痕調査の成果より－」『中山清美さん追悼論文集』, 487-499, 2018, 査読無
- 鈴木三男・孫国平・鄭雲飛・中村慎一「中国浙江省田螺山遺跡から出土したイチョウの木製品」『植生史研究』26：75-78, 2017, 査読有
- N. Watanabe, S. Nakamura, B. Liu, N. Wang. Utilization of Structure from Motion for processing CORONA satellite images: Application to mapping and interpretation of archaeological features in Liangzhu Culture, China. *Archaeological Research in Asia* 11: 38-50, 2017, 査読有
- 金原正明・金原正子「纏向遺跡第78次調査溝1における花粉分析概要」『纏向遺跡発掘調査報告書』4：48-49, 2017, 査読有
- 黒住耐二「東アジアにおける貝製仮面およびその類似製品に利用された貝類の同定」『千葉県立中央博物館研究報告－人文科学－』13（2）：82-89, 2017, 査読無
- Fujita Masaki, Yamasaki Shinji, Katagiri Chiaki, Oshiro Itsuro, Sano Katsuhiko, Kurozumi Taiji, Sugawara Hiroshi, Kunikita Dai, Matsuzaki Hiroyuki, Kano Akihiro, Okumura Tomoyo, Sone Tomomi, Fujita Hikaru, Kobayashi Satoshi, Naruse Toru, Kondo Megumi, Matsu'ura Shuji, Suwa Gen, Kaifu Yousuke. Advanced maritime adaptation in the western Pacific coastal region extends back to 35,000-30,000 years

before present. *Proceedings of the National Academy of Sciences* 113: 11184-11189, 2017, 査読有

- 菊地大樹 「外国考古学研究の動向 中国」『日本考古学年報』 68 : 64-70, 2016, 査読無
- 黒住耐二 「東アジアにおける貝製仮面およびその類似製品に利用された貝類の同定」『千葉県立中央博物館研究報告－人文科学－』 13 (3) : 82-96, 2016, 査読有
- Kumagai M, Kanehara M, Shoda S, Fujita S, Onuki S, Ueda S and Wang L. Rice varieties in archaic East Asia: reduction of its diversity from past to present times. *Molecular Biology and Evolution* 33(10): 2496-2505, 2016, 査読無
- 小畑弘己 「害虫と食料貯蔵－縄文コクゾウムシが語る多様な食料貯蔵」『海と山と里の考古学－山崎純男博士古稀記念論集－』, 107-118, 2016, 査読無
- 小畑弘己 「圧痕法が切り開く新たな縄文時代像」『BIOSTORY』 26 : 68-69, 2016, 査読無

〈A03 計画研究〉計 43 本（内査読有 22 本）

- 小林正史 「山陰における湯取り法炊飯から米蒸し調理への転換過程」『物質文化』 100 : 105-124, 2020, 査読有
- 小林正史・久保田慎二・小野本敦. 「湯取り法炊飯から米蒸し調理への転換過程」『新潟考古』 31 : 79-98, 2020, 査読無
- 小林正史 「ウルチ米を蒸す調理の民族誌比較：ジャワの二度蒸し法を中心に」『北陸学院大学研究紀要』 12 : 31-56, 2020, 査読無
- Shoda, Shinya, Alexandre Lucquin, Oksana Yanshina, Yaroslav Kuzmin, Igor Shevkomud, Vitaly Medvedev, Evgeniya Derevianko, Zoya Lapshina, Oliver E. Craig, and Peter Jordan. Late Glacial Hunter-Gatherer Pottery in the Russian Far East: Indications of Diversity in Origins and Use. *Quaternary Science Reviews* 229 (Feb): 106124-106124, 2019, 査読有
- 大澤正昭・大川裕子・村上陽子・酒井駿多 「『補農書』（含「沈氏農書」）試釈－現地調査を踏まえて－（三・完）」『上智史学』 64 : 35-77, 2019, 査読有
- 小林正史 「弥生時代から古墳前期への湯取り法炊飯の変化」『古代』 145 : 117-185, 2019, 査読有
- 小林正史 「北タイ・カレン族の伝統的米調理方法」『物質文化』 99 : 75-96, 2019, 査読有
- 小林正史 「古墳時代・古代の米蒸し調理」『物質文化』 98 : 1-19, 2018, 査読有
- 小林正史 「竈構造の時間的变化と地域差についての定量的分析」『物質文化』 98 : 99-119, 2018, 査読有
- 小林正史・久保田慎二・陳維鈞 「スス・コゲからみた台湾北部の新石器時代～中近世の炊飯方法」『東南アジア考古学会誌』 38 : 23-40, 2018, 査読有
- 小林正史・滝沢規朗 「スス・コゲからみた東北地方（阿賀北以北）の弥生・古墳深鍋による炊飯方法」『新潟考古』 29 : 39-58, 2018, 査読無

- Lucquin, A., Robson, H. K., Eley, Y., Shoda, S. & Craig, O. E. The impact of environmental change on the use of early pottery by East Asian hunter-gatherers. *Proceedings of the National Academy of Sciences of the United States of America* 115(31): 7931-7936, 2018, 査読有
- 大澤正明・大川裕子・村上陽子・酒井駿多『補農書』(含『沈氏農書』) 試積(2)－現地調査をふまえて－『上智史学』63: 55-104, 2018, 査読有
- Shoda, S., et al. Molecular and Isotopic Evidence for the Processing of Starchy Plants in Early Neolithic Pottery from China. *Scientific Reports* 8(1): 17044-17044, 2018, 査読有
- Leo Aoi HOSOYA, Masashi KOBAYASHI, Shinji KUBOTA, Guoping SUN. Rice and the Formation of Complex Society in East Asia: Reconstruction of Cooking through Pot Soot and Carbon Deposits Pattern Analysis. In Xinyi Liu, Emma Lightfoot & Dorian Fuller (eds.) *Feeding the Past: Papers in Honour of Martin Jones*, McDonald Institute Monograph series, University of Cambridge, pp. 236-267, 2018, 査読有
- 小林正史「ラオス・オイ族における米品種の早晚性、粘り気度、水田の水量の関連」『北陸学院大学研究紀要』10, 2018, 査読無
- 久保田慎二・小林正史・宮田佳樹・孫国平・王永磊・中村慎一「河姆渡文化における煮沸土器の使い分けと調理に関する学際的研究」『中国考古学』17: 1-16, 2017, 査読有
- 小林正史「弥生・古墳時代深鍋にみる炊飯用とオカズ用の分化」『理論考古学の実践Ⅱ』同成社, 381-410, 2017, 査読無
- 小林正史「鍋の形・作りの変化」『モノと技術の古代史・陶芸編』吉川弘文館, 9-55, 2017, 査読無
- 小林正史「使い方との関連からみた土器の製作技術」『モノと技術の古代史・陶芸編』吉川弘文館, 157-205, 2017, 査読無
- 小林正史・北野博司・宇野隆夫「食器」『モノと技術の古代史・陶芸編』吉川弘文館, 59-95, 2017, 査読無
- 村上由美子・鈴木三男「浙江省田螺山遺跡で出土した新石器時代の木製品の調査」『植生史研究』26(2): 1-2, 2017, 査読有
- Shoda Shinya, Lucquin Alexandre, Ahn Jae-ho, Hwang Chul-joo, Craig Oliver E. Pottery use by early Holocene hunter-gatherers of the Korean peninsula closely linked with the exploitation of marine resources. *Quaternary Science Reviews* 170: 164-173, doi: 10.1016/j.quascirev.2017.06.032, 2017, 査読有
- 庄田慎矢・オリヴァー＝クレイグ「土器残存脂質分析の成果と日本考古学への応用可能性」『日本考古学』43: 79-89, 2017, 査読有
- 庄田慎矢・孫峻鎬「日本の発掘調査と報告書作成・配布・活用」『野外考古学』30: 143-164, 2017, 査読有
- 小林正史・外山政子「ラオス・オイ族における伝統的米品種の粘り気度の変化要因」『石

川島考古学研究会会誌』60 : 15-36, 2017, 査読無

- 庄田慎矢 「農耕の定着化と土器の器種構成の変化」『季刊考古学』138 : 47-50, 2017, 査読無
- 村上由美子 「稲作社会の成立と木材利用の変化」『稲作と中国文明』ニュースレター2 : 6-6, 2017, 査読無
- 楊平 「水上生活における資源利用ー中国太湖の家船コミュニティの事例からー」鳥越皓之・足立重和・金菱清編著『生活環境主義のコミュニティ分析』ミネルヴァ出版, 2017, 査読無
- 小林正史 「東北地方における縄文深鍋から弥生深鍋への調理方法の変化 : 東北日本の遠賀川系深鍋による炊飯方法の特徴」『日本考古学協会 2016 年度弘前大会・第1分科会研究報告資料集』, 111-151, 2016, 査読無
- 小林正史・外山政子・北野博司 「ラオス・アタプー県オイ族の伝統的米作りの変容過程」『物質文化』96 : 71-88, 2016, 査読有
- Carl HERON, Shin'ya SHODA, Adria BREU BARCONS, Janusz CZEBRESZUK, Yvette ELEY, Marise GORTON, Wiebke KIRLEIS, Jutta KNEISEL, Alexandre LUCQUIN, Johannes MULLER, Yastami NISHIDA, Joon-Ho SON, Oliver E CRAIG. First Molecular and Isotopic Evidence of Millet Processing in Prehistoric Pottery Vessels. *Scientific Report* 6, doi: 10.1038/srep38767, 2016, 査読有
- Masahiko KUMAGAI, Masaaki KANEHARA, Shin'ya SHODA, Saburo FUJITA, Shizuo ONUKI, Shintaroh UEDA and Li WANG. Rice Varieties in Archaic East Asia: Reduction of Its Diversity from Past to Present Times. *Molecular Biology and Evolution* 33 (10): 2496-2505, 2016, 査読有
- Leo Aoi Hosoya. Traditional Raised-Floor Granary and Rice Production Cycle in Bali: Past, Present, and Future of Balinese Agriculture. P. Konvalina (ed.), *Alternative Crops and Cropping Systems*, 47-69, doi: 10.5772/62643, 2016, 査読有
- 楊平 「名水の旅から見えてくるもの」『まほら』91, 2016, 査読無
- 細谷葵 「先史時代の堅果類加工再考ー世界的な比較研究をともなう民族考古学をめざして」『古代』138 : 1-38, 2016, 査読有
- 小林正史 「鍋のススコゲから見た縄文・弥生時代の囲炉裏構造」『縄文時代の食と住まい』1 : 79-130, 2016, 査読無
- 小林正史 「総論 : 土器使用痕分析の目的と方法」『考古学ジャーナル』682 : 3-4, 2016, 査読無
- 小林正史 「基礎研究としての炊飯民族誌の比較分析」『考古学ジャーナル』682 : 10-14, 2016, 査読無
- 小林正史・外山政子・北野博司 「ラオス・アタプー県オイ族の伝統的米作り」『北陸学院大学研究紀要』8 : 159-184, 2016, 査読無

- 小林正史・外山政子「東西日本間の竈の地域差を生み出した背景」『石川県考古学研究会会誌』59：57-74, 2016, 査読無
- 楊平「環境の継続的保全は何で決まるのか：資源利用から考える」『日中社会学研究』23：8-14, 2015, 査読無

〈A04 計画研究〉計 18 本（内査読有 14 本）

- Lam Dinh Thi, Ichitani Katsuyuki, Henry Robert J., Ishikawa Ryuji. Molecular and Morphological Divergence of Australian Wild Rice. *Plants* 9: 224-224, doi: 10.3390/plants9020224, 2020, 査読有
- Muto Chiaki, Tanaka Katsunori, Tabuchi Hiroaki, Kurauchi Nobuyuki, Sato Yo-Ichiro, Ishikawa Ryuji. Genetic diversity of preserved rice seed samples from the Mikawa area, Japan, stored in the Meiji era. *Breed. Sci.* 3: 347-354, 2020, doi: 10.1270/jsbbs.19143, 査読有
- Taddesse Lake, Fukuta Yoshimichi, Ishikawa Ryuji. Genetic study of diversity and blast resistance in Ethiopian rice cultivars adapted to different ecosystems. *Breed. Sci.* 3: 303-312, 2020, doi: 10.1270/jsbbs.18198, 査読有
- 宇田津徹朗・田崎博之・劉斌・王寧遠・鄭雲飛「水田探査結果から推定される良渚遺跡群の水田立地モデル」『中国考古学』19：69-90, 2019, 査読有
- 宇田津徹朗・宮本一夫・樂豊実・JIN 桂雲・王富強「楊家圈遺址水田遺跡探査」『東方考古』15：261-281, 2019, 査読有
- 上條信彦・孫国平「田螺山遺跡出土礫石器からみた食料加工技術の変化ー使用痕および残存デンプン粒分析を中心にー」『中国考古学』19：47-68, 2019, 査読有
- Lam, DT, BC Buu, TL Lang, K Toriyama, I Nakamura and R Ishikawa. Genetic diversity among perennial wild rice *Oryza rufipogon* Griff., in the Mekong Delta. *Ecology and Evolution*. *Ecology and Evolution* 1: 1-14, doi: 10.1002/ece3.4978, 2019, 査読有
- Dinh Thi Lam and Ryuji Ishikawa. Molecular discrimination of landraces of Citrus species in the Okinawa, Japan. *Genetic Resources and Crop Evolution* 66: 321-333, doi: 10.1007/s10722-018-0710-x, 2018, 査読有
- Kaewcheenchai R, U Promnart, K Soontrajarn, S Chotechuen, S Chittrakon, H Yuki, S Saito, Y-I Sato and R Ishikawa. Diverse genetic variation in maternal lineages with high heterogeneity among in-situ conserved wild rice (*Oryza rufipogon* Griff.) developed in Thailand. *Breed. Sci.* 68: 614-621, 2018, 査読有
- Brozynska, M., D. Copetti, A. Furtado, R. A. Wing, D. Crayn, G. Fox, R. Ishikawa, R. J. Henry. Sequencing of Australian wild rice genomes reveals ancestral relationships with domesticated rice. *Plant Biotechnology Journal* 15: 1-10, 2017, doi: 10.1111/pbi.12674, 査読有

- 上條信彦「水上（2）遺跡検出礫石器の残存デンプン粒分析」『水上（2）遺跡III』青森県埋蔵文化財調査センター575：95-99, 2017
- Castillo, C.C, Tanaka, K., Sato, Y.-I., Ishikawa, R., Bellina, B., Higham, C., Chang, N., Mohanty, R., Kajale, M., Fuller, D.Q. Archaeogenetic study of prehistoric rice remains from Thailand and India: Evidence of early japonica in South and Southeast Asia. *Archaeological and Anthropological Science* 8: 523-543, 2016, 査読有
- Tanaka, K., Stevens, C.J, Iwasaki, S., Akashi, Y., Yamamoto, E., Dung, T.P, Nishida, H., Fuller, D.Q, Kato, K. Seed size and chloroplast DNA of modern and ancient seeds explain the establishment of Japanese cultivated melon by introduction and selection. *Genetic Resources and Crop Evolution* 63: 1237-1254, 2016, 査読有
- Muto C, Ishikawa R. Olsen KM, Kawano K, Bounphanousay C, Matoh T, Sato YI. The origin and diversification of wx allele of glutinous indica rice landraces through the traditional slash and burn system in northern Laos. *Breed. Sci.* 66: 580-590, 2016, 査読有
- Hao Y., M. Akimoto, R. Kaewcheenchai, M. Sotowa, T. Ishii, R. Ishikawa. Inconsistent diversities between nuclear and plastid genomes of AA genome species in the genus *Oryza*. *Genes & Genetic Systems* 90(5): 269-281, doi: 10.1266/ggs.14-00063, 2016, 査読有
- 田崎博之「書評：木下晴一『古代日本の河川灌漑』」『中国水利史研究』43：41-44, 2015
- 上條信彦「使用痕・残存デンプン分析および蛍光エックス線分析からみた小山崎遺跡検出の石皿、磨石類の機能と用途」『小山崎遺跡発掘調査報告書－総括編－』1：488-496, 2015
- Tanaka, K., Kamijo, N., Tabuchi, H., Hanamori, K., Matsuda, R., Suginomori, J., Sato, Y.-I., Udatsu, T., Ishikawa, R. Morphological and molecular genetics of ancient remains and modern rice (*Oryza sativa*) confirm diversity in ancient Japan. *Genetic Resources and Crop Evolution* 63: 447-467, doi: 10.1007/s10722-015-0262-2, 2015, 査読有

〈A05 計画研究〉計 13 本（内査読有 11 本）

- 久保田慎二・宮田佳樹・小林正史・孫国平・王永磊・中村慎一「河姆渡文化の副食調理土器－学際的手法によるアプローチ－」『古代』145：37-54, 2019, 査読有
- 板橋悠・米田穰「人骨の化学分析による食と社会の復元」『月刊考古学ジャーナル』714：5-9, 2018, 査読無
- 岡崎健治「結核と社会」『季刊考古学』143：65-68, 2018, 査読無
- 米田穰「同位素生態学研究方法的展望—対長江下游早期農耕民生活と社会的復元研究」『南方文物』2017.03: 10-15, 2017, 査読有
- Sawada, J., E. Miyama, S. Watanabe, S. Kubota. Paleopathological Description of the Huiyaotian Human Remains. *National Museum of Nature and Science Monographs* 48: 65-80, 2017, 査読有



- Sawada, J. Paleopathological Description of the Liyupo Human Remains. *National Museum of Nature and Science Monographs* 48: 129-142, 2017, 査読有
- Shibutani, A. What did Jomon people consume for starchy food? A review of the current studies on archaeological starch grains in Japan. *Japanese Journal of Archaeology* 5: 3-25, 2017, 査読有
- 久保田慎二・小林正史・宮田佳樹・孫国平・王永磊・中村慎一「河姆渡文化における煮沸土器の使い分けと調理に関する学際的研究」『中国考古学』17 : 73-92, 2017, 査読有
- Tsutaya, T., T. Gakuhari, A. Asahira, M. Yoneda. Isotopic composition of gelatin extracted from bone powder with that from bone chunk and development of a framework for comparison of different extraction methods. *Journal of Archaeological Science* 11: 99-105, doi: 10.1016/j.jasrep.2016.11.044, 2017, 査読有
- Naito, Y.I., H. Bocherens, Y. Chikaraishi, D.G. Drucker, C. Wiszing, M. Yoneda, and N. Ohkouchi. An overview of method used for the detection of aquatic resource consumption by humans: Compound-specific delta N-15 analysis of amino acids in archaeological materials. *Journal of Archaeological Science* 6: 720-732, doi: 10.1016/j.jasrep.2015.11.025, 2016, 査読有
- Kusaka S, Ishimaru E, Hyodo F, Gakuhari T, Yoneda M, Yumoto T, Tayasu I. Homogeneous diet of contemporary Japanese inferred by stable isotope ratios of hair. *Scientific Reports* 6: 33122-33122, doi: 10.1038/srep33122, 2016, 査読有
- Gakuhari T, Komiya H, Sawada J, Anezaki T, Sato T, Kobayashi K, Itoh S, Kobayashi K, Matsuzaki H, Yoshida K, Yoneda M. Radiocarbon dating of one human and two dog burials from the Kamikuroiwa rock shelter site, Ehime Prefecture. *Anthropological Science* 123(2): 87-94, doi: 10.1537/ase.150309, 2015, 査読有
- 日下宗一郎・佐宗亜衣子・米田穰「縄文時代の國府・伊川津遺跡から出土した人骨の放射性炭素年代測定と炭素・窒素安定同位体分析」『AS (J. Ser.)』123(1): 31-40, doi: 10.1537/asj.150414, 2015, 査読有

〈公募研究〉計 16 本 (内査読有 9 本)

- 高椋浩史・岡崎健治「股骨形態研究」『馬家浜』, 242-250, 2019, 査読無
- Okazaki Kenji, Takamuku Hirofumi, Yonemoto Shiori, Itahashi Yu, Gakuhari Takashi, Yoneda Minoru, Chen Jie. A paleopathological approach to early human adaptation for wet-rice agriculture: The first case of Neolithic spinal tuberculosis at the Yangtze River Delta of China. *International Journal of Paleopathology* 24: 236-244, doi: 10.1016/j.ijpp.2019.01.002, 2019, 査読有
- 覚張隆史「家畜の同位体分析 (特集 動物考古学のいま)」『季刊考古学』144 : 51-55, 2018, 査読無

- 松永篤知・久保田慎二・中村慎一「「稲作と中国文明」展における三次元海外遺物レプリカの展示」『金沢大学資料館紀要』15：21-29, doi: 10.24517/00058246, 2020, 査読有
- 松永篤知「今朝平遺跡出土縄文土器底部の敷物圧痕について」『今朝平遺跡』第2分冊：141-146, 2019, 査読無
- 松永篤知「中国と日本の先史編物を比較する」『考古学ジャーナル』729：34-37, 2019
- 松永篤知「中国先史時代の編物について」『中国考古学』19：91-108, 2019, 査読有
- 松永篤知「考古学視点から見た石川県の編物の歴史」『北陸史学』67：1-22, 2018, 査読有
- 久保田慎二・宮田佳樹・小林正史・孫国平・王永磊・中村慎一「河姆渡文化の副食調理土器—学際的手法によるアプローチ—」『古代』, 2019, 査読有
- 小林正史・久保田慎二・陳維鈞「スス・コゲからみた台湾北部の新石器時代～中近世の炊飯方法」『東南アジア考古学』38：23-40, 2018, 査読有
- 久保田慎二「中国新石器時代末期から初期王朝時代の土器利用に関する学際的研究」『考古学ジャーナル』716：28-31, 2018, 査読無
- Wu, X., Liu, X., Wang, J., Yamamoto, M. Climatic and ecological changes of the past 1900 years inferred from long-chain alkenone in Kusai Lake, northern Qinghai-Tibetan Plateau. *Quaternary International* 487: 33-42, doi: 10.1016/j.quaint.2018.02.007, 2018, 査読有
- 大澤正昭・大川裕子・村上陽子・酒井駿多「『補農書』（含『沈氏農書』）試積—現地調査を踏まえて—（一）」『上智史学』62：119-153, 2017, 査読無
- 大川裕子「南陽の六門陂をめぐる」『中国古代史研究第八』8：65-77, 2017, 査読無
- 大川裕子「汝南・鴻隙陂の興廃をめぐる—漢代江淮の水利と開発—」『日本秦漢史研究』17, 2016, 査読有
- 大澤正昭・村上陽子・大川裕子「『農言著実』試積—現地調査を踏まえて—」『上智史学』61：85-117, 2016, 査読有

〈総括班〉

- 米田穰「骨考古学からせまる社会の複雑化—人間行動生態学の視点—」『季刊考古学』143：61-64, 2018, 査読無
- 横幕真・畑山智史・佐藤巧庸・覚張隆史・宮田佳樹「古加賀三湖周辺における水産資源利用—貝類の自然科学分析を中心とした基礎的研究—」『石川考古学研究会会誌』, 2018, 査読無
- Kume, S., Miyata, Y., and Kadowaki, S. Feasting with the dead on the Euphrates: Stable isotope analysis of carbonized residues on Early Bronze Age ceramics from the cemetery near Tell Ghanem al-'Ali. *Papers in honor of Professor Katsuhiko Ohnuma on the occasion of his 70th birthday. Al-Rafidan* 38: 95-100, 2017, 査読無

- 富山慎二・南雅代・中村俊夫・金原正明「炭化物  $^{14}\text{C}$  年代測定の前処理過程の科学的解明—和歌山県根来寺坊院跡から出土した炭化米の分析—」『考古学と自然科学』72 : 45-61, 2017, 査読無
- 米田穰「同位体生態学による長江下流域初期農耕民の生活と社会の研究：方法と展望」『南方文物』, 2017, 査読有
- 宇田津徹朗「両城鎮遺址生産遺存探査」『東方考古』13 : 113-133, 2016, 査読有
- Miyata, Y., Horiuchi, A., Kondo, M., Onbe, S., Yoshida, K., Nagao, S., Paleo Labo AMS Dating Group and Nishimoto, T. Marine reservoir effects deduced from  $^{14}\text{C}$  dates on pottery residues, bones, and molluscan shells from the Hamanaka 2 archaeological site, Rebun Island, Hokkaido, Japan. *Radiocarbon* 58: 755-770, doi: 10.1017/rdc.2016.93, 2016, 査読有
- 宇田津徹朗・浦谷綾香「プラント・オパール分析法を用いた良渚遺跡群における水田遺構探査」宇田津徹朗編『長江下流域における基盤整備型水田の成立期に関する学際的研究』平成 24 年度～平成 27 年度科学研究費補助金（基盤研究（B）国際学術調査）成果報告書, 5-64, 2016, 査読無
- Someda, H., T. Gakuhari, J. Akai, Y. Araki, T. Kodera, G. Tsumatori, T. Kobayashi, S. Matunaga, S. Abe, M. Hashimoto, M. Saito, M. Yoneda and H. Ishida. Trial application of oxygen and carbon isotope analysis in tooth enamel for identification of pos-war victims for discriminating between Japanese and US soldiers. *Forensic Science International*, 2016, 査読有

〈国際活動支援班〉

- 中村慎一「中国稲作文明の形成」『河姆渡と良渚』, 353-365, 2020, 査読無
- Gakuhari T., Yoneda M. et.al. Ancient Jomon genome sequence analysis sheds light on migration patterns of early East Asian populations. *Communications Biology* 3: 1-40, doi: 10.1038/s42003-020-01162-2, 2020, 査読有
- 板橋悠・覚張隆史・米田穰「第五節人骨安定同位素分析」『馬家浜』, 251-256, 2019, 査読無
- 覚張隆史・板橋悠・米田穰「sr 同位素分析」『馬家浜』, 263-264, 2019, 査読無
- 中村慎一「良渚文化晩期という時代」『日本中国考古学会 2019 年度総会・大会予稿・要旨集』, 6-11, 2019, 査読無
- Ishikawa, R., N. Badenoch, K. Miyagi, K. Medoruma, T. Osada, M. Oonishi. Multi-lineages of Shiikuwasha (*Citrus depressa* Hayata) evaluated by using whole chloroplast genome sequences and its bio-diversity in Okinawa, Japan. *Breed. Sci.* 66: 490-498, doi: 10.1270/jsbbs.15151, 2016, 査読有

2. 学会発表

〈A01 計画研究〉計 96 本（内国際学会 33 本）

- 神谷嘉美. “漆黑”をめぐる東西の温故知新. 石川県次世代産業育成講座・新技術セミナー, 2019
- 楊平. 水辺と暮らしーコミュニティのカー. 滋賀県立琵琶湖博物館研究セミナー, 2019
- YANG, Ping. Lake Biwa and environmental policy, Sino-Japan joint workshop on plateau lakes' eutrophication and ecosystem restoration, Yunnan University, 2019, 国際学会
- 榎林啓介. 農具組成からみた石犁. 新学術領域「稲作文明学」2019 年度夏季全体会議, 2019
- 小柳美樹. 古代中国の神々. 平塚市民・大学交流事業「考古学の世界」, 2020
- 小柳美樹. 中国の農耕と起源とその展開 2. JICA 地球ひろば, 2020
- 小柳美樹. 中国の農耕の起源とその展開 1. JICA 地球ひろば, 2020
- 小柳美樹. 石犁 2019 夏. 「稲作文明」新領域全体会議, 2019
- 村上由美子, 鈴木三男, 浦 蓉子, 川崎雄一郎, 鶴来航介, 西原和代, 山下優介, 孫 国平, 中村慎一. 浙江省田螺山遺跡における木製品の用材傾向ークワ属の多用とその利用法一. 第 34 回日本植生史学会大会, 2019
- 秦小麗, 中村慎一. 長江中流域における玉器の生産と流通. 日本中国考古学会 2019 年度大会, 2019
- 原田幹, 榎林啓介, 小柳美樹, 田崎博之, 中村慎一. 復元破土器の実験とその使用痕. 日本中国考古学会 2019 年度大会, 2019
- 久保田慎二, 小林正史, 宮田佳樹, 鏡百恵, 劉斌, 王寧遠, 陳明輝, 中村慎一. 良渚遺跡群における煮沸土器の使い分けー卞家山・葡萄ハンの分析を中心にー. 日本中国考古学会 2019 年度大会, 2019
- 渋谷綾子, 孫国平, 劉斌, 王寧遠, 陳傑, 宋建, 岡崎健治, 板橋悠, 中村慎一. 人骨の歯石に残るデンプン粒からみた長江下流域新石器時代の植物食. 第 73 回日本人類学会大会, 2019
- 田中克典, 上條信彦, 久保田慎二, 石川隆二, 田崎博之, 金原正明, 金原美奈子, 劉斌, 王寧遠, 陳明輝, 王才林, 趙春芳, 中村慎一, 宇田津徹朗. 浙江省良渚遺跡群より出土したイネ種子の DNA 分析. 日本文化財科学会第 36 回大会, 2019
- 久保田慎二, 秦小麗, 吉開将人, 小柳美樹, 榎林啓介, 楊平, 神谷嘉美, 松永篤知, 中村慎一. 長江下流域における物質文化の変遷と社会の複雑化. 日本考古学協会第 85 回 (2019 年度) 総会, 2019
- Yoshimi Kamiya, Takayuki Honda, Bin Liu, Ningyuan Wang, Guoping Sun, Shinichi Nakamura. Analysis of the lacquer ware excavated from the ruins of the Yangtze Valley in the Neolithic. 22nd International Symposium on Analytical and Applied

Pyrolysis (PYRO2018) , 2018, 国際学会

- 久保田慎二、小林正史、宮田佳樹、北野博司、劉斌、王寧遠、陳明輝、中村慎一。良渚文化の蒸し調理と土器の使い分け—良渚遺跡群美人地遺跡を例として—。日本中国考古学会 2018 年度大会, 2018
- 渋谷綾子・孫国平・劉斌・王寧遠・陳傑・宋建・岡崎健治・板橋悠・中村慎一。歯石の残存デンプン粒を用いた長江下流域新石器時代の植物食の復元。第 72 回日本人類学会大会, 2018
- 渋谷綾子・孫国平・劉斌・王寧遠・陳傑・宋建・岡崎健治・板橋悠・中村慎一。人骨の歯石の残存デンプン粒からみた長江下流域新石器時代の植物食。考古学研究会第 64 回総会・研究集会, 2018
- HARADA, M, MAKIBAYASHI, K. Harvesting tools in the late Neolithic lower Yangtze area. SEAA Conference Nanjing 2018, 2018, 国際学会
- 村上由美子・浦蓉子・西原和代・山下優介・川崎雄一郎・鶴来航介・孫国平・中村慎一。中国新石器時代の木材加工にみる刃こぼれの痕跡—浙江省田螺山遺跡出土材の検討から—。日本文化財科学会第 35 回大会, 2018
- S. Kubota, M. Kobayashi, Y. Miyata, G. Sun, Y. Wang, S. Nakamura. Rice Cooking Method in Hemudu Culture at the Tianluoshan Site, Zhejiang Province, China. SEAA Conference Nanjing 2018, 2018, 国際学会
- Miyata, Y., Kubota, S., Kobayashi, M., Nishida, Y., Horiuchi, A., Miyauchi, N., Yoshida, K., Sun, G., Wang, Y. and Nakamura. Paleo diets reconstructed from food residue in pottery in Lower Yangtze area using lipid analysis and compounds-specific and bulk stable isotope composition. SEAA Conference Nanjing 2018, 2018, 国際学会
- Ayako Shibutani, Bin Liu, Ningyuan Wang, Jie Chen, Jian Song, Kenji Okazaki, Yu Itahashi, Shin'ichi Nakamura. Plant Food in the Neolithic Lower Yangtze Area, China from Starch Granules of Human Dental Calculus. SEAA Conference Nanjing 2018, 2018, 国際学会
- 宮田佳樹・西田泰民・堀内晶子・吉田邦夫・中村慎一。土器残存有機物を用いた古食性復元—田螺山遺跡を例として—。日本文化財科学会第 35 回大会, 2018
- 板橋悠・覚張隆史・菊地大樹・丸山真史・孫国平・中村慎一・米田穰。酸素同位体比による長江下流域、田螺山遺跡への象牙製品の持ち込みの検証。日本文化財科学会第 35 回大会, 2018
- 神谷嘉美・劉斌・王寧遠・中村慎一。題従漆膜構造看中国新石器時代の漆工芸。中国古代漆器国際學術検討会・2018 年中国文物学会漆器瑠璃器專業委員会年会, 2018, 国際学会
- 久保田慎二・小林正史・宮田佳樹・孫国平・王寧遠・陳明輝・王永磊・劉斌・中村慎一。新石器時代長江下流の炊器利用与其演变。中国考古学研究・第 2 届中日論壇, 2018,

国際学会

- 楊平. 自然資源を活かす地域づくりのありかた. 滋賀県立琵琶湖博物館研究セミナー, 2018
- Kiiti Takahashi ・ YangPing. Relationship between the Mammuthus -Coelodonta fauna and the Northern Microblade Industries in Northeast and North China. The 6th Conference on Cultural History of Paleo Asia, 2018, 国際学会
- 秦小麗. 夏時期長江系玉器在黄河中游地区的拡散. 第二届中国考古学大会, 2018, 国際学会
- 秦小麗. 中国国家成立期儀礼性遺物所反映的地域間交流. 中国考古学研究・第2届中日論壇, 2018, 国際学会
- Shin-ichi Nakamura. Kingdom of Jade: Reconsidering Liangzhu. Copan : A Comparative Perspective Symposium, 2017, 国際学会
- 宇田津徹朗・田崎博之・中村慎一・劉斌・王寧遠・鄭雲飛. 良渚遺跡群荀山地区の試掘調査から推定される水田稲作について. 日本文化財科学会第34回大会, 2017
- 板橋悠・覚張隆史・孫国平・菊地大樹・丸山真史・米田穰・中村慎一. 炭素・窒素安定同位体比分析による中国長江流域の大型哺乳類の種同定. 日本文化財科学会第34回大会, 2017
- 宮田佳樹・堀内晶子・西田泰民・吉田邦夫・孫国平・中村慎一. 田螺山遺跡出土土器残存有機物を用いた古食性復元. 日本文化財科学会第34回大会, 2017
- 板橋悠・覚張隆史・丸山真史・菊地大樹・澤田純明・岡崎健二・高椋浩史・孫国平・王寧遠・劉斌・中村慎一・米田穰. 食性復元に基づく長江下流域の新石器農耕民の水田漁撈経済の検証. 第71回日本人類学会大会, 2017
- Xiaoli Qin. The Dynamic relationship between South China and Vietnam in the China early state formation period --Based on analysis of Yazhang, carnelian beads, Turquoise and seashells. The 16th Conference of European Association of Southeast Asian Archaeologists, 2017, 国際学会
- 秦小麗. 中国文化遺産の調査方法と保存歷程. 中国陝西省文物技術保護研究所シンポジウム『文化資源の調査方法と世界各国の比較研究』, 2017, 国際学会
- 秦小麗. 玉器、トルコ石、メノウと海貝—BC2000-1000年之間的地域間交流. 夏商時期玉器文化国際学術検討会, 2017, 国際学会
- Xiaoli Qin. Turquoise Ornaments and Inlay technology in Ancient Maya and China. Copan : A Comparative Perspective Symposium, 2017, 国際学会
- 秦小麗. 新石器時代後期の黄河流域における長江系玉器の拡散. 日本中国考古学会2017年度大会, 2017
- 秦小麗. 中国文化資源の保存と活用. 愛媛大学アジア鉄文化研究センター・愛媛大学文学部考古研究室講演, 2018

- 秦小麗. 伝統的な博物館コレクション研究、展示とフィールド調査ーカナダのロイヤルオンタリオ博物館の考古学研究と関連展示を事例としてー. 公開シンポジウム「文化遺産の発信地としての博物館」, 2018
- 吉開将人. 日本人と華南研究. 華南地区国際日語教育研究会, 2017, 国際学会
- 槇林啓介・村上恭通. 上島町宮ノ浦遺跡での製塩活動. 第8回海洋考古学会, 2017
- 原田幹. 使用痕分析からみた石製収穫具の使用方法について. 東海石器研究会, 2017
- 原田幹. 実験石犁の使用痕. 第43回金沢大学考古学大会, 2017
- 松永篤知. 良渚文化期の編物について. 第43回金沢大学考古学大会, 2017
- 宮田佳樹・久保田慎二・小林正史. 陶器脂質残留分析技術在考古学中的应用. 華夏考古学術論壇 第四期, 2017, 招待講演
- Shinji Kubota. A study on the formation process of Shang burial system: Focusing on Liuzhuang site in Xiaqiyuan culture. Copan : A Comparative Perspective Symposium, 2017, 国際学会
- 久保田慎二・小林正史・宮田佳樹. 煮るか炊くかー田螺山遺跡のコメ調理ー. 第43回金沢大学考古学大会, 2017
- 久保田慎二・小林正史・宮田佳樹・劉斌・王寧遠・陳明輝・中村慎一. 良渚文化における煮沸器の使い分けに関する初歩的考察. 日本中国考古学会 2017 年度大会, 2017
- 宮田佳樹・久保田慎二・小林正史・堀内晶子・西田泰民・宮内信雄・吉田邦夫・孫国平・中村慎一. 中国新石器時代初期稲作遺構田螺山遺跡出土土器脂質分析による食性復元. 日本第四紀学会 2017 年大会, 2017
- 久保田慎二. 長江下流域の新石器時代における煮沸土器の利用とその変遷. 日本中国考古学会関東部会第189回例会, 2018
- 覚張隆史・板橋悠・岡崎健治・高椋浩史・宋建・陳傑・孫国平・劉斌・米田穰・中村慎一. 新石器時代の長江下流域における移民率の評価. 日本文化財科学会第34回大会, 2017
- 覚張隆史・板橋悠・岡崎健治・高椋浩史・澤田純明・宋建・陳傑・黄渭金・孫国平・王寧遠・劉斌・米田穰・中村慎一. 新石器時代の長江下流域におけるヒトの移動性に関する研究. 第71回日本人類学会大会, 2017
- 澤田純明・佐伯史子・板橋悠・米田穰・覚張隆史・久保田慎二・王冬冬・呂夢・中村慎一・孫国平・黄渭金. 中国南部の田螺山・河姆渡遺跡から出土した初期新石器時代人骨群の古病理学的所見. 第71回日本人類学会大会, 2017
- 中村慎一. 稲作文明と植物利用. 第32回日本植生史学会大会公開シンポジウム, 2017
- 槇林啓介. 古代中国石鎌の多元性. 首届中国考古学大会, 2016, 国際学会
- Qin Xiaoli. Inter-regional Relationships in the Hemudu Culture to Liangzhu Culture Period View from Distribution Pattern of Beads in East China. The 7th Worldwide Conference Of SEAA, 2016, 国際学会

- KOBAYASHI Masashi, KUBOTA Shinji, SUN Guoping, WANG Yonglei. Cooking Pottery Use-wear Analyses to Reconstruct Rice Cooking Methods of Early Rice Faemers in Japan and Middle China. The 7th Worldwide Conference Of SEAA, 2016, 国際学会
- 楨林啓介. 稲作出現地とその周辺部への伝播の様相-長江流域を例として. 平成 28 年度瀬戸内海考古学研究会大会, 2016
- 中村慎一. 中国稲作文明の起源を探る. 日本学術会議中部地区会議学術講演会, 2016, 国際学会, 招待講演
- 久保田慎二. 中国初期王朝時代における階層構造とその成立過程. 金沢大学第 6 回文化資源学フォーラム, 2016
- 秦小麗. 試論新石器時代黄河中游地区出土的長江系玉器. 早期石城和文明化進程—中国陝西神木石ボウ遺址国際学術研討会, 2016, 国際学会
- 久保田慎二. 從陶器看陝北地区考古文化与陶寺文化的關係. 早期石城和文明化進程—中国陝西神木石ボウ遺址国際学術研討会, 2016, 国際学会
- Shin-ichi Nakamura. Rice Farming and Chinese Civilization: Establishing General Study of Rice-based Civilization. 8th World Archaeological Congress (WAC-8 Kyoto) , 2016, 国際学会
- Qin Xiaoli. Jade Beads Production in East Region of China. 8th World Archaeological Congress (WAC-8 Kyoto) , 2016, 国際学会
- 中村慎一. 物質文化の変遷と社会の複雑化. 日中合同総合稲作文明学シンポジウム, 2016, 国際学会
- 中村慎一. 河姆渡文化時期的日本—概論縄文文化—. 河姆渡文化研究中心学術講演会, 2016, 国際学会, 招待講演
- 久保田慎二・中村慎一. 中国初期稲作文化の様相. 第二回文化財・科学技術研究講演会「考古学と先端科学が明かす縄文文化と中国新石器文化」, 2016, 招待講演
- 中村慎一. 良渚都市文明の勃興と消滅. 金沢大学文化資源学セミナー「文明と王権」公開講演会, 2016
- 秦小麗. 中国初期国家形成過程中的牙璋及其意義. 東亜牙璋学術研討会, 2016, 国際学会
- 吉開将人. 北海道・台湾・南中国—東アジアの「学知」と民族史像. サステナビリティ国際シンポジウム：東アジアにおける大学と先住民族との協業のあり方を探る—先住民文化遺産と考古学：台湾原住民とアイヌ, 2016
- Shin-ichi Nakamura Living by the Waterside: Human Adaptation to Global Warming during the Holocene Climatic Optimum in China. The 16th World Lake Conference, 2016, 国際学会, 招待講演
- 秦小麗・中村慎一・孫国平・王永磊. 管珠類から見た中国東部地区の玉生産技術変化



とその意義. 日本中国考古学会 2016 年度大会, 2016

- 久保田慎二・小林正史・孫国平・王永磊・中村慎一. スス・コゲからみた河姆渡文化における煮沸器の使用痕研究. 日本中国考古学会 2016 年度大会, 2016
- 中村慎一. 「魚米之郷」の考古学—浙江省田螺山遺跡の日中共同研究—. 企画展《「魚米之郷」の考古学》講演会, 2016
- Shin-ichi Nakamura. Domestication of wetlands and the origin of rice cultivation in China. “上山文化”命名十周年稲作農業起源国際学術研討会, 2016, 国際学会, 招待講演
- 中村慎一. 与良渚遺址群相關的中日合作研究. 紀念良渚遺址發現 80 周年学術研討会, 2016, 国際学会, 招待講演
- 小柳美樹. “石犁”からみた崧澤、良渚文化期の農業社会. 日本中国考古学会関東部会, 2017
- 原田幹. 実験石犁の使用痕分析. 日本中国考古学会関東部会, 2017
- 小柳美樹. 石製農耕具からみた中国初期稲作民の社会. シンポジウム「人類学から迫る古代長江流域の稲作農耕民」, 2017
- 中村慎一. 総合稲作文明学が目指すもの. 総合稲作文明学シンポジウム「長江流域における文明形成—考古学と関連科学の最前線—」, 2017
- 金原正明・中村慎一・鄭雲飛・金原正子. 長江下流域の初期稲作文明における植物遺体群集の基礎的研究. 日本文化財科学会第 32 回大会, 2015
- 宇田津徹朗・田崎博之・中村慎一・金原正明・小柳美樹・藤原宏志・浦谷綾・李小寧・劉斌・王寧遠・鄭雲飛. 東アジアにおける基盤整備型水田の成立期に関する実証的研究（第 2 報）. 日本文化財科学会第 32 回大会, 2015
- 米田穰・中村慎一・金原正明・細谷葵・宇田津徹朗. 新学術領域研究「稲作と中国文明—総合稲作文明学の新構築—」における第四紀学の応用と展開. 日本第四紀学会 2015 年大会, 2015
- 中村慎一. 考古学の壁を打ちやぶる—新学術領域研究「総合稲作文明学」がめざすもの—. 金沢大学新学術創成研究機構キックオフシンポジウム, 2015
- 澤田純明・李珍・黄云忠・黄強・久保田慎二・深山絵実梨・渡辺慎也・山形眞理子・Nguyen Lan Cuong・洪曉純・松村博文. 中国広西ヨウ江城の先史時代遺跡から出土した採集狩猟民の古病理学的特徴. 第 69 回日本人類学会大会, 2015
- 松村博文・李珍・黄云忠・黄強・久保田慎二・Nguyen Lan Cuong・深山絵実梨・渡辺慎也・山形眞理子・洪曉純・澤田純明・篠田謙一・海部陽介. 中国広西ヨウ江城の先史狩猟民のユニークな屈葬人骨—ユーラシア東部の人類史解明に向けて—. 第 69 回日本人類学会大会, 2015
- 秦小麗. 黄河流域の早期青銅器時代における王権シンボル. 第 12 回金沢大学文化資源学セミナー, 2015
- 久保田慎二. 中国新石器時代末期から初期王朝時代における権力の出現過程. 早稲田

大学総合人文科学研究センター主催シンポジウム『権力の誕生 儀礼・祭祀からみる古代文明形成の考古学的アプローチ』, 2016

- 秦小麗. 二里頭時代の地域間動態関係とその背景. 玉器と王権の誕生, 2016, 国際学会
- 中村慎一. 物質文化の変遷と社会の複雑化. 稲作と中国文明—総合稲作文明学の新構築—キックオフシンポジウム, 2016
- 槇林啓介. 稲作伝播論の再検討—広範囲経済と稲作専門経済の視点から—. 第70回近江貝塚研究会, 2016

〈A02 計画研究〉計 33 本 (内国際学会 5 本)

- 金原正明. 古環境の変遷と動・植物利用の諸段階. 日本考古学協会 2019 大会, 2019
- 金原正明. 遺体分析からみた遺跡の画期とその利用. 日本文化財科学学会 2019 年大会, 2019
- Masaaki KANEHARA. Urbanization from the Perspective of Environmental Shifts and Plant. Society for East Asian Archaeology, 2018, 国際学会
- 宇田津徹朗・田崎博之・渡部展也・金原正明ほか. GIS を用いた微細地形面分析との連携による水田遺構探索試行. 学会等名日本文化財科学学会, 2018
- 小畑弘己・宮浦舞衣・金原正明・金原美奈子・孫国平. 中国浙江省田螺山遺跡における土器圧痕調査とその成果—*Sitophilus* 属甲虫の発見—. 日本植生史学会, 2018
- Adachi, T., S. Fujii and T. Kurozumi. Neolithic exchange networks of marine shell ornaments in East Jordan desert area. 13th International Conference of Archaeozoology, 2018, 国際学会
- 黒住耐二. 微小貝類から想定される「葦灰」製塩の可能性. 日本動物考古学会第6回大会, 2018
- Masashi Maruyama, Hiroki Kikuchi, et al. Were chickens exploited in the Neolithic early rice cultivation society of the lower Yangtze Valley through the Faunal Materials from the Site of Tianluoshan (7000-5500 cal BP). 13th International Conference of Archaeozoology, 2018, 国際学会
- 板橋悠・覚張隆史・菊地大樹. 酸素同位体比における長江下流域、田螺山遺跡への象牙製品の持ち込みの検証. 日本文化財科学学会第35回大会, 2018
- KIKUCHI Hiroki, MARUYAMA Masashi, SONG Shu. Transition in the Exploitation of Animals and Urbanization from Tianluoshan to Liangzhu. 8th Worldwide Conference of the Society for East Asian, 2018, 国際学会
- ITAHASHI Yu, GAKUHARI Takashi, MARUYAMA Masashi, KIKUCHI Hiroki. Dietary shift of the Neolithic rice farmers at the Lower, 2018, 国際学会
- 鈴木三男・小林和貴・佐々木由香・能城修一・鄭雲飛・丁品・中村慎一. 中国浙江省湖州市銭山遺跡から再発掘された「絹製品」の素材同定. 植生史学会, 2017

- Nobuya Watanabe. Geoinformatics and Archaeology, The Silk Road Friendship Project. SAVING SYRIAN CULTURAL HERITAGE FOR THE NEXT GENERATION BEIRUT WORKSHOP, 2017
- 金原正明. 栽培植物、農耕、環境をめぐる環境考古学手法の検討と新知見. 日本考古学協会, 2017
- 金原正明・岡田憲一・杉山真二・金原正子. 中国日本における初期水田の機能と環境、栽培植物. 日本文化財科学会, 2017
- 金原正明・金原裕美子. 古環境の変遷と動・植物利用の初段階. 日本植生史学会, 2017
- 青木智史・阿部善也・巽善信・日野宏・藤原郁代・金原正明. 蛍光 X 線分析による天理参考館所蔵 成吉思皇帝聖旨牌の材質分析. 日本文化財科学会, 2017
- 黒住耐二・孫国平・中村慎一. 中国浙江省の田螺山遺跡で確認された貝類遺体. 日本貝類学会, 2017
- 黒住耐二・劉斌・趙曄・王寧遠・中村慎一. 中国・浙江省・良渚遺跡群の卞家山遺跡から出土した貝類遺体. 日本動物考古学会, 2017
- 小畑弘己. 種実・昆虫混入土器とその意味について. 日本考古学協会, 2017
- 丸山真史. 環境変化と漁労の展開－動物考古学から見た生業－. 文化財技術研究会, 2017
- 菊地大樹. 中国新石器時代長江下流域における動物利用の変遷. 日本動物考古学会, 2017
- 黒住耐二・孫国平・中村慎一. 中国浙江省の田螺山遺跡で確認された貝類遺体. 日本貝類学会平成 28 年度大会, 東邦大学習志野キャンパス, 2016
- 丸山真史. 環境変化と漁労の展開－動物考古学から見た生業－. 第 2 回文化財技術研究会, 大分市民ホール, 2016
- 菊地大樹. 中国新石器時代長江下流域における動物利用の変遷. 日本動物考古学会第 4 回大会, 鳥取県青谷町総合支所, 2016
- 黒住耐二・劉斌・趙曄・王寧遠・中村慎一. 中国・浙江省・良渚遺跡群の卞家山遺跡から出土した貝類遺体. 日本動物考古学会第 4 回大会, 鳥取県青谷町総合支所, 2016
- 熊谷真彦. NGS データ解析. 第 201 回農林交流センターワークショップ, 農林水産技術会議事務局 筑波産学連携支援センター, 2016
- Nobuya Watanabe. Rectification of CORONA satellite images with Visual Structure from Motion: Application for archaeological feature detection and Mapping. Eighth World Archeology Congress (WAC8), Kyoto, Doshisha University, 2016
- 小畑弘己. 考古昆虫学と土器からみた家屋害虫. 研究成果公開シンポジウム「土器を掘る－土器研究と圧痕法のいま、そして未来－」. 明治大学グローバルホール, 2016
- 金原正明・金原正子. 糞便堆積と糞石の分析研究. 日本文化財科学会第 33 回大会, 奈良大学, 2016

- 金原正明. 中国の新石器時代における古環境変遷と初期栽培植物の研究展開. 植生史学会, 北海道博物館, 2015
- 黒住耐二. 中国・浙江省の田螺山遺跡調査でみた貝類. 房総貝類談話会, 千葉県立中央博物館, 2015
- 金原正明. 長江下流域の初期稲作文明における植物遺体群集の基礎的研究. 日本文化財化学会, 東京学芸大学, 2015

〈A03 計画研究〉計 82 本 (内国際学会 37 本)

- 細谷葵・小林正史・庄田慎矢・西田泰民・村上由美子・大川裕子. 食からみる中国稲作社会の成立要因－化学分析と民族・文献調査から－. 日本考古学協会第 85 回総会, 駒澤大学, 2019
- 滝沢規朗・小野本敦・小林正史. 弥生時代から古墳時代への炊飯方法の変化：加賀と越後の比較. 日本文化財科学会第 35 回大会, 東京藝術大学, 2019-
- 庄田慎矢. Анализ органических остатков в керамике: принципы и применение. Современные методы исследования археологической керамики, カザフスタン国立博物館, 2019, 国際学会, 招待講演
- 庄田慎矢. 質量分析計による過去の食と調理の研究. 分析技術研究会, 奈良文化財研究所 2019, 招待講演
- 庄田慎矢. Understanding Pottery Use from Terminal Pleistocene to Early Holocene East Asia. Capital Normal University Seminar, 首都師範大学, 2019, 国際学会, 招待講演
- 庄田慎矢. Molecular and isotopic evidence for East Asian prehistoric culinary. University of Chinese Academy of Sciences Seminar, 中国科学院大学, 2019, 国際学会, 招待講演
- 庄田慎矢. Seeking prehistoric fermented food in Japan and Korea. Wenner-Gren Foundation for Anthropological Research Symposium: Cultures of Fermentation, Tivoli Palcio de Seteais, 2019 国際学会, 招待講演
- 庄田慎矢. Biomolecular Archaeology in East Asia: Shedding new light on ancient cookery. School of Humanities and Social Sciences Nazarbayev University Seminar, ナザルバエフ大学, 2019, 国際学会, 招待講演
- 庄田慎矢. Emerging archaeochemical evidence of pottery use from Terminal Pleistocene to Early Holocene East Asia. La Trobe University, La Trobe University Archaeology Seminar Series, 2019, 国際学会, 招待講演
- 庄田慎矢. Boiling and Steaming: Innovations, Continuity and Resistance in Holocene East Asia. Archaeologies of Tradition, Continuity and Resistance, Australian National University 2019, 国際学会, 招待講演
- 大川裕子. 从生太杯境史視角看水利与農業－日本杯境史研究的概况－. 招待講演 西

北農業技術大学, 2019, 国際学会, 招待講演

- 村上由美子・鈴木三男・浦蓉子・川崎雄一郎・鶴来航介・西原和代・山下優介・孫国平・中村慎一. Wooden Pestles for Rice Processing in East Asia - Exploring the origin and function as tools -. The 18th Conference of the international workshop for paleoethnobotany, Salento University, 2019 国際学会
- 村上由美子・鈴木三男・浦蓉子・川崎雄一郎・鶴来航介・西原和代・山下優介・孫国平・中村慎一. 浙江省田螺山遺跡における木製品の用材傾向－クワ属の多用とその利用法－. 日本植生史学会第 34 回大会, 豊橋市自然史博物館, 2019
- 村上由美子. 東アジアにおける竪杵の成立と展開－長江流域新石器時代の事例を中心に－. 日本中国考古学会 2019 年度大会, 愛媛大学, 2019
- 村上由美子. The Beginning of Use of Evergreen Oak Tree in East Asia. The 4th Asia Research Node Symposium on Humanosphere Science, 南京国際会議大酒店, 2019, 国際学会
- 小林正史. 弥生・古墳時代のススコゲの付く壺による調理方法. 日本考古学協会第 85 回総会, 駒澤大学, 2019
- 小林正史. 東南アジア・南アジア民族誌における粥調理. 日本文化人類学会第 53 回研究大会, 東北大学, 2019
- 小林正史・外山政子. 東日本の弥生・古墳時代の台付き深鍋の選択理由. 考古学研究会第 65 回総会・研究集会, 岡山大学, 2019
- 小林正史・外山政子・松永篤知. 3D スキャナを用いた上東遺跡井戸 P ト出土深鍋のススコゲ分析. 日本文化財科学会第 36 回大会, 東京藝術大学, 2019
- 細谷葵. Reconstructing Food Culture and the Society in Neolithic East Asia: The Frontiers of 'Social' Archaeobotany. 北京大学招待講演, 北京大学, 2019, 国際学会, 招待講演
- 細谷葵. Ethnoarchaeology of Plant Food Usage and Cultivation in the Lower Yangtze Region. SEAA 8: Society for East Asian Archaeology 8th Worldwide Conference, 南京大学, 2018, 国際学会
- 小林正史. 稲作農耕民の火処の選択要因についての民族誌モデル. 考古学研究会第 64 回総会・研究集会, 岡山大学, 2018
- 小林正史・久保田慎二・陳維鈞. 土鍋のスス・コゲからみた台湾北部の新石器時代～中近世の炊飯方法. 日本文化財科学会第 35 回大会, 奈良女子大学, 2018
- 小林正史. 米調理時間の短縮化を生み出した要因についての民族誌モデル. 日本考古学協会第 84 回総会, 明治大学, 2017
- 小林正史・久保田慎二・孫国平・王永磊. Cooking Pottery Use-wear Analyses to Reconstruct Rice Cooking Methods of Early Rice Farmers in Japan and Middle China. SEAA 7th Meeting at Boston University, 2018, 国際学会

- 村上由美子・浦蓉子・西原和代・山下優介・川崎雄一郎・鶴来航介・孫国平・中村慎一. 中国新石器時代の木材加工にみる刃こぼれの痕跡—浙江省田螺山遺跡出土材の検討から—. 日本文化財科学会第35回大会, 奈良女子大学, 2018
- 庄田慎矢. In Pursuit of Lost Cuisine: Accelerating Pottery Lipid Residue Analysis in East Asia. Invited lecture, Fudan University, 2018-03-16, 国際学会, 招待講演
- Shoda, Shinya, Kazuko Matsui, Chuichi Watanabe, Norio Teramae and Oliver E Craig. Rapid, cost-effective lipid analysis of small samples of archaeological ceramic by pyrolysis GC-MS. 8th International Symposium on Biomolecular Archaeology ISBA, 2018, 国際学会
- Shinya Shoda. In Pursuit of Lost Cuisine: Accelerating Pottery Lipid Residue Analysis in East Asia, Fudan University, 2018, 国際学会, 招待講演
- 庄田慎矢. ガスクロを使つてのぞく古代人の鍋事情. 第356回ガスクロマトグラフィー研究懇談会, 2018, 招待講演
- Shinya Shoda. Challenges of Biomolecular Archaeobotany in East Asia. New trends in Afro-Eurasian Archaeobotany, 2018, 国際学会, 招待講演
- 庄田慎矢. ここまで来た！世界最先端をゆくイギリスの考古生化学, 奈良シニア大学, 2018, 招待講演
- 庄田慎矢. 弥生時代前半期の日韓の土器編年と暦年代を考える上での問題点. 第29回東アジア古代史・考古学研究会交流会, 2018
- Leo Aoi HOSOYA. Feast as a Farming “Technique”: Ethnohistorical Case Studies from Amami Islands, Japan. Society for American Archaeology 2017 annual conference, Vancouver Convention Center, Canada, 2017, 国際学会
- Shin'ya SHODA. On the Puzzling Case of the Late Adoption of Pottery in Korea. Symposium Innovation and dispersal of pottery in East Asia (and beyond), University of York, UK, 2017, 国際学会, 招待講演
- 庄田慎矢. ヨーク大学におけるバイオアーキオロジー(Biomolecular Archaeology)、どこまでわかる「食の考古学」その理論と実践. 公開シンポジウム『どこまでわかる「食の考古学」その理論と実践』, 東北大学川内キャンパス, 2017, 招待講演
- 細谷葵. たかが食、されど食：料理と食物加工の復元からどこまでわかる過去の社会. 公開シンポジウム『どこまでわかる「食の考古学」その理論と実践』, 東北大学川内キャンパス, 2017, 招待講演
- 細谷葵. 中国初期稲作民が食べたもの：植物考古学と土器付着物分析から考える. 日中国際共同研究成果講演会『人類学から迫る古代長江流域の稲作農耕民』, 東京大学総合博物館, 2017, 招待講演
- 揚平. 太湖における水田の機能解明と民俗・考古資料整備. 滋賀県立琵琶湖博物館研究報告会, 滋賀県立琵琶湖博物館, 2017

- 楊平. 資源の共的利用がもつ意味. 滋賀県立琵琶湖博物館研究報告会, 滋賀県立琵琶湖博物館, 2017
- 細谷葵. プロダクティブな国際協働研究へ向けた日本考古学の発信. 一般社団法人日本考古学協会第 83 回 (2017 年度) 総会, 2017
- 細谷葵・小林正史・庄田慎矢・西田泰民・村上由美子・孫国平・オリヴァー＝クレイグ. 中国初期稲作民の食文化と環境適応～浙江省田螺山遺跡を中心に. 第 32 回日本植生史学会大会, 2017, 招待講演
- 小林正史. 和食の成立過程：古代における飯用食器とオカズ・汁用食器の作り分け. 考古学研究会第 63 回総会・研究集会, 2017
- 小林正史. 弥生時代～古代の米飯の食べ方の変化. 一般社団法人日本考古学協会第 83 回 (2017 年度) 総会, 2017
- 小林正史. 復元土器の水平割口の出現頻度による粘土紐接着強度の定量化. 日本文化財科学会第 34 回大会, 2017
- 庄田慎矢. 土器に残された脂質からせまる縄文海進期の日本海沿岸の食. 第 287 回京都大学生態学研究センターセミナー, 2017, 招待講演
- 庄田慎矢・リュキャン・アレクサンドル・西田泰民・安在皓・黄喆周・西田巖・三原裕姫子・クレイグ・オリヴァー. 環日本海沿岸の完新世海面上昇期における土器の用途. 日本文化財科学会第 34 回大会, 2017
- 庄田慎矢. 最新の研究が明らかにする先史東アジアにおける植物利用の多様性. 農業学の過去、現在、未来：新しい日英共同研究の実現に向けて, 国立科学博物館, 2017, 招待講演
- 西田泰民. 加熱とデンプン粒の変化. 日本文化財科学会第 34 回大会, 2017
- Yastami Nishida. Cooking Experiment for Pottery Usage Analysis. Vth International Congress of Experimental Archaeology, 2017, 国際学会
- 庄田慎矢・アレクサンドル＝リュキャン・オリヴァー＝クレイグ. 土器残存脂質から探る「新石器時代」食生態の多様性. 第 6 回同位体環境学シンポジウム, 総合地球環境学研究所, 2016
- 細谷葵. 食文化の現在と過去をつなぐ～稲作民の民族考古学. 集う・使う・創る 新空間展示「魚米之郷」の考古学：講演会『<魚米之郷>食と生業の考古学』, 滋賀県立琵琶湖博物館, 2016, 招待講演
- Ping YANG, Leo Aoi HOSOYA. Changes of Farming Life and the Lake Environment (ポスター). 第 16 回世界湖沼会議, ディスカバリー・カルティカ・プラザホテル, バリ島, 2016, 国際学会
- 小林正史. 東北地方における縄文深鍋から弥生深鍋への調理方法の変化：東北日本の遠賀川系深鍋による炊飯方法の特徴. 日本考古学協会 2016 年度弘前大会, 弘前大学, 2016
- 庄田慎矢. 東北アジアの青銅器模倣. 第 65 回埋蔵文化財研究集会, 福岡市博物館, 2016,

招待講演

- 庄田慎矢. 土器に残された油脂の考古生化学. 公開講演会『英国発！グローバル考古学』, 奈良国立文化財研究所, 2016, 招待講演
- Leo Aoi HOSOYA. Wild Nuts in the Past and Present: Comparative Ethnoarchaeobotanical Studies of East Asia and USA. WAC8: 8th World Archaeology Congress, 同志社大学, 2016, 国際学会
- Leo Aoi HOSOYA, Masashi KOBAYASHI, Yastami NISHIDA, Shin'ya SHODA, Oliver CRAIG, Shinji KUBOTA, Guoping SUN. Reconstructing foodways of Chinese early rice farmers: Pottery chemical analyses and use-wear analyses at the Tianluoshan site, Zhejiang, China. WAC8: 8th World Archaeology Congress, 同志社大学, 2016, 国際学会
- Shin'ya SHODA, Alexandre LUCQUIN, Joon-ho SON, Jae-ho AHN, Chul-joo HWANG, Guo-ping SUN, Yastami NISHIDA, Idy SOU, Carl HERON & Oliver E CRAIG. Plant Food in Pots: Evidence from Organic Residue Analysis of East Asian Pottery. WAC8: 8th World Archaeology Congress, 同志社大学, 2016, 国際学会
- Shin'ya SHODA. Organic Residue Analysis and Pottery Innovation: Recent debates. WAC8: 8th World Archaeology Congress, 同志社大学, 2016, 国際学会
- Leo Aoi HOSOYA. Theorization of Japanese Archaeology: Is It Possible? Is It Needed? - In Relation to the Globalization of East Asian Archaeology. International Symposium "Current debates in World Archaeology II", Seoul National University, Korea, 2016, 国際学会, 招待講演
- Leo Aoi HOSOYA. Processing, Storage and Symbolism of Wild Nuts in the Past and Present: Comparative Ethnoarchaeobotanical Studies of Japan and California, USA. 17th Conference of International Working Group for Palaeoethnobotany, Paris National Museum for Natural History, France, 2016, 国際学会
- Leo Aoi HOSOYA. Processing, Storage and Symbolism of Wild Nuts in the Past and Present: Comparative Ethnoarchaeobotanical Studies of East Asia and USA. 7th Worldwide Conference of the Society for East Asian Archaeology, Harvard University/Boston University, USA, 2016 国際学会
- Masashi KOBAYASHI, Shinji KUBOTA, Guoping SUN & Yonglei WANG. Cooking Pottery Use-wear Analyses to Reconstruct Rice Cooking Methods of Early Rice Farmers in Japan and Middle China. 7th Worldwide Conference of the Society for East Asian Archaeology, Harvard University/Boston University, USA, 2016, 国際学会
- 小林正史・久保田慎二・孫国平・王永磊. 竪穴建物の焼却と覆土での火焚き行為の理由. 日本文化財科学会第33回大会, 奈良大学, 2016
- Shin'ya SHODA. Organic Residue Analysis of Pottery in East Asia: Recent Debates and New Challenges. East Asian Archaeology Seminar in the Institute of Archaeology,



University of Oxford, UK, 2016, 国際学会, 招待講演

- 小林正史. 蒸したウルチ米が主食となった理由. 日本考古学協会第 82 回総会, 東京学芸大学, 2016
- Shin'ya SHODA. Very Hot Pot Studies. Pint of Science" Seminar, Fulford Arms, York, UK, 2016, 国際学会, 招待講演
- 小林正史. 東北地方の初期水田稲作研究の進展, Anthropology of Japan in Japan 研究大会, 東北大学, 2016
- 小林正史. 弥生・古墳時代（相当期）の鍋釜からみた西日本と韓半島の中の調理方法の違い. 考古学研究会第 62 回総会・研究集会, 岡山大学, 2016
- Shinya Shoda. The Diversity of Pottery Use in Prehistoric East Asia: Reconstructed by Organic Residue Analysis. China Night ICCHA Research Seminar series, Room 209, Institute of Archaeology, UCL, 2016, 国際学会
- 細谷葵. 野生植物食利用に関する民族調査の意義と課題～国際的な比較研究に向けて～. 伝統知・植物利用・食 in 東アジア・ミニシンポジウム「中国と日本の食の伝統」, お茶の水女子大学, 2016
- 楊平. 食用植物の利用と貯蔵に関する社会学的アプローチ. 伝統知・植物利用・食 in 東アジア・ミニシンポジウム「中国と日本の食の伝統」, お茶の水女子大学, 2016
- Shinya Shoda. Different Narratives on Innovation Processes: the innovation of Early Pottery by Late Pleistocene and Early Holocene Societies in East Asia. Prehistoric Networks in the longue pure: Palaeolithic Innovations enabling the Neolithic Revolution, Topoi Haus, Freie University Berlin, 2015, 国際学会
- Yumiko Murakami, Kunihiro Wakabayashi, Noboru Higami, Katsuhiko Kimura, Masaki Sano, Takeshi Nakatsuka. Archaeological Approaches to Investigate How Local Societies Reacted to the Climate Changes in Japan. 3rd Conference of East Asian Environmental History, Kagawa University / Sunport Takamatsu, 2015, 国際学会
- Leo Aoi Hosoya. Reconstructing Food Culture and the Society: The frontiers of archaeobotany and ethnoarchaeology of East Asian Neolithic. 54th Evolutionary Biology Seminar, 中国科学院植物学研究所, 2015, 国際学会, 招待講演
- Leo Aoi Hosoya, Oki Nakamura, Shinji Seguchi, Ayako Shibutani. Japanese Jomon Hunter-Gatherers' Subsistence and Society: Chronological shifts in subsistence strategies on the basis of local characteristics of north Tohoku area. 11th Conference on Hunting and Gathering Societies, University of Vienna, Austria, 2015, 国際学会
- Yumiko Murakami. Management of wetland for initial rice cultivation and use of wood in the final Jomon period. XIX INQUA Congress, Nagoya Congress Center, 2015, 国際学会
- 小林正史・鐘ヶ江賢二・河西学. 断面薄片の粒子配向と復元土器の水平割口頻度からみ

た東北地方の縄文・弥生深鍋の紐積み方法の変化. 日本文化財科学会第 32 回大会, 東京学芸大学, 2015

- 矢作健二・小林正史・篠宮正. 煮炊き用土器の素地の砂粒度組成の時間的变化. 日本文化財科学会第 32 回大会, 東京学芸大学, 2015

〈A04 計画研究〉計 41 本 (内国際学会 7 本)

- 山岸洋貴・片岡太郎・Dinh Thi Lam・石川隆二. 日本産ヒシ属植物の系統地理に関する研究. 日本生態学会, 2020
- 宇田津徹朗・田崎博之・渡部展也・大庭重信・劉斌・王寧遠・鄭雲飛. 稲作の視点から見た良渚遺跡群における土地利用と土地開発. 日本文化財科学会, 2020
- 宇田津徹朗・田崎博之・渡部展也. 良渚遺跡群におけるイネの生産量推定の試み. 日本中国考古学会, 2019
- Dinh Thi Lam・湯陵華・山岸洋貴・片岡太郎・石川隆二. 葉緑体ゲノムからみたヒシの進化と栽培化. 日本育種学会, 2019
- 山岸洋貴・片岡太郎・Dinh Thi Lam・石川隆二. 日本産ヒシ属植物集団の遺伝的多様性に関する研究. 日本生態学会, 2019
- 山岸洋貴・片岡太郎・Dinh Thi Lam・石川隆二. 北日本に生育するヒシの系統解析について. 水草研究会, 2019
- 田中克典・上條信彦・久保田慎二・石川隆二・田崎博之・金原正明・金原美奈子・劉斌・王寧遠・王才林・趙春芳・中村慎一・宇田津徹朗. 浙江省良渚遺跡群より出土したイネ種子の DNA 分析. 日本文化財科学会, 2019
- 田崎博之・宇田津徹朗・石川隆二・上條信彦・田中克典. 中国新石器時代における良渚文化期の稲作技術について. 日本考古学協会, 2019
- 上條信彦・孫国平. 田螺山遺跡石器・木杵の使用痕・残存デンプン粒分析から見た食料資源利用. 日本中国考古学会 2018 年度大会, 2018
- Kamijo Nobuhiko. Subsistence strategies at the Tianluoshan site, Zhejiang, China, reconstructed by starch residue analyses. The 8th Worldwide Conference of the Society for East Asian Archaeology, 2018
- Katsunori Tanaka. DNA analysis for the rice remain from Northern Kyushu island, Japan. The 8th Worldwide Conference of the Society for East Asian Archaeology, 2018
- 田中克典. 山東半島の龍山文化期の遺跡から出土したイネにおける DNA 分析と日本への伝播. 国際研究集会 2 「東北アジア農耕伝播過程の植物考古学分析による実証的研究」, 2018
- Hiroyuki TASAKI, Tetsurou UDATSU, Yunfei ZHENG, Pin DING, Bin LIU, Ningyuan WANG. Paddy field construction and utilization of the Liangzhu Period viewed from the trial excavation at the Xunshan site. The 8th Worldwide Conference of the Society

for East Asian Archaeology, 2018

- 宇田津徹朗・田崎博之・劉斌・王寧遠・鄭雲飛. 水田探査結果から推定される良渚遺跡群の水田立地モデル. 日本中国考古学会 2018 年度大会, 2018
- 宇田津徹朗・田崎博之・渡辺展也・金原正明・劉斌・王寧遠・鄭雲飛. GIS を用いた微細地形面分析との連携による水田遺構探査の試行. 日本文化財科学会第35回大会, 2018
- 宇田津徹朗・右田晋太郎・石川隆二・一谷勝之. プラント・オパール形状を利用した野生イネの分化と変遷に関する基礎的研究. 日本文化財科学会, 2018
- 宇田津徹朗・田崎博之・渡部展也・金原正明・劉斌・王寧遠・鄭雲飛. GIS を用いた微細地形分析との連携による水田遺構探査の試行. 日本文化財科学会, 2018
- Hiroyuki Tasaki, Tetsuro Udatsu, Zheng Yunfei, Zheng Pin, Liu Bin, Wang Ningyuan. Paddy field construction and utilization of the Liangzhu period viewed from the trial excavation at the Xunshan site. SEAA, 2018, 国際学会
- 宇田津徹朗・田崎博之・中村慎一・劉斌・王寧遠・鄭雲飛. 良渚遺跡群荀山地区の試掘調査から推定される水田稲作について. 日本文化財科学会第 34 回大会, 東北芸術工科大学, 2017-06-10
- 宇田津徹朗・田崎博之・中村慎一・劉斌・王寧遠・鄭雲飛. 良渚遺跡群荀山地区の試掘調査から推定される水田稲作について. 日本文化財科学会, 2017
- 田崎博之・宇田津徹朗. 長江下流域・良渚文化期における堆積環境の変化と埋没水田探査. 日本植生史学会, 2017
- 植村真郷・保木良太・西帯野翼・田浦悟・佐藤雅志・石川隆二・一谷勝之. アジア栽培イネ *O. sativa* とオーストラリア野生イネ *O. meridionalis* の交雑後代に見出された部分不稔現象の遺伝子分析. 日本育種学会, 2017
- 菅原魁人・一谷勝之・石川隆二. *O. rupogon* と *O. meridionails* が同所的に生息するオーストラリア野生イネ集団における自然交雑の検証. 日本育種学会, 2017
- Dinh Thi Lam, Ryuji Ishikawa. Screening and characterizing Cytoplasmic Male Sterile (CMS) in perennial wild rice populations (*Oryza rufipogon*). 東北育種研究集会, 2017
- 鶴岡優希・石川隆二. ヒシのゲノムサイズ測定と次世代シーケンサーからの分子マーカー設置と多様性評価への応用. 東北育種研究集会, 2017
- Kamijo Nobuhiko. The Process of Accepting Rice Cultivation in Northern Japan as Seen from DNA and Rice Grain Shapes. Eighth World Archaeological Congress, 同志社大学, 2016-08-28, 国際学会
- 上條信彦. 稲作文化の拡散を探る. 第2届中日民族文化比較研究学術検討会. 広西大学, 2016-07-25
- Katsunori Tanaka, Shigenobu Oba, Kenji Kato. Seed size and genetic variation was shifted with changing political and social conditions in Japan. 17th International Work-Group for Palaeoethnobotany, National Museum for Natural History, Paris, 2016, 国際

学会

- Katsunori Tanaka. Shifting of Seed Morphology and DNA Variation in Japanese Rice. The 7th Worldwide Conference of the Society for East Asian Archaeology, Boston University, USA, 2016, 国際学会
- 上條信彦. Research on Macrobotanical Remains of the Horse Chestnuts and Manchurian Walnuts from a Waterlogged Site of the Latter Half of Jomon Period, North-Eastern Japan. Seventh Worldwide Conference of the SEAA, Boston University, USA, 2016, 国際学会
- Tanaka, K. Shifting of Seed Morphology and DNA Variation in Japanese Rice. The Seventh Worldwide Conference of the SEAA, Harvard University and Boston University, 2016, 国際学会
- 宇田津徹朗・田崎博之・中村慎一・浦谷綾香・劉斌・王寧遠・鄭雲飛. 良渚遺跡群荀山地区における水田遺構探査. 日本文化財科学会, 奈良大学, 2016
- 上條信彦・田中克典・佐々木葉月. 出土イネの形態からみた歴史的遷移の検討. 日本考古学協会第 82 回総会, 東京学芸大学, 2016
- Noriko Tamura, R. Henry, Katsuyuki Ichitani and Ryuji Ishikawa. Endemic Oryza species in Australia as breeding resources to improve grain size. AgroTrop2015, University of Queensland, Australia, 2015, 国際学会
- 菅原魁人・加東未来・島田美理・一谷勝之・石川隆二. 他種が同所的に生息するオーストラリア野生イネ集団における異質な個体の形質評価. 日本育種学会東北育種研究集会, 東北大学, 2015
- 片岡太郎・上條信彦・佐々木由香・鹿納晴尚・佐々木理. X 線 CT による籃胎漆器の製作技法と素材同定に関する研究. 日本植生史学会, 北海道博物館, 2015
- 田中克典. 東日本への稲作の展開—形状分析と DNA 考古分析から. 弘前大学特別プロジェクトシンポジウム 考古学と遺伝学の新地平イネの来たる道, 弘前大学 50 周年記念会館, 2015
- 上条信彦. 从 DNA・形態分析来看出土稻米品種研究. 考古学系列講座, 山東大学, 2015
- 石川隆二. 日本人が受容したイネ. 日本育種学会市民公開シンポジウム「作物の起源と人が育てた栽培植物—研究と探索からの日本の食と花文化再考—」第 128 回秋季大会, 新潟大学, 2015
- 田中克典・上條信彦. 出土米の形状分析からみた日本におけるイネ品種の展開. 日本文化財科学会, 東京学芸大学, 2015
- 上條信彦. 形態・考古 DNA 分析からみた稲作の歴史的変遷. 日本中国考古学会, 九州大学, 2015

〈A05 計画研究〉計 34 本 (内国際学会 14 本)

- Yoneda, M., Y. Itahashi, T. Gakhari, K. Okazaki. Isotopic analysis of human remains from the Majiabang site. 馬家浜文化学術研討会, 2019, 国際学会, 招待講演
- 宮田佳樹. 土器脂質分析による古食性復元ー古代人のクックパッド復元を目指してー. 日本家政学会食文化研究部会, 2019, 招待講演
- Itahashi, Y., M. Yoneda. Reconstruction of animal utilization in prehistoric southern China by compound-specific isotope analysis of amino acids. The International Conference of Archaeology in South East Asia and Southern China, 2019, 国際学会, 招待講演
- Yoneda, M. Adoption of rice farming by Yayoi culture of prehistoric Japan. First Annual Meeting of Chinese Diet Archaeology - Stable Isotope Analysis, 2019, 国際学会, 招待講演
- Itahashi, Y. Estimation of the contributions of animal protein and aquatic protein to the diets of humans and pigs by compound specific isotope analysis of amino acids. First Annual Meeting of Chinese Diet Archaeology - Stable Isotope Analysis, 2019, 国際学会
- 米田穰. 長江デルタ地域の新石器時代における食の多様性, 第 73 回日本人類学会大会, 2019
- 板橋悠. ヒトと動物の食性復元に基づく家畜出現と食糧生産経済への転換の考察. 第 73 回日本人類学会大会, 2019
- 澤田純明. 長江デルタの新石器時代人骨から得られた骨考古学的知見: 特にストレスマーカーと加工人骨について. 第 73 回日本人類学会大会, 2019
- 岡崎健治. 骨形態からみた長江デルタ地域の初期稲作農耕民. 第 73 回日本人類学会大会, 2019
- 宮田佳樹. 長江下流域初期稲作遺跡出土土器の脂質分析結果. 第 73 回日本人類学会大会, 2019
- 高椋浩史・岡崎健治・米元史織・川久保善智・大野憲五・富田啓貴. 長江下流域における新石器時代集団の四肢骨形態. 第 73 回日本人類学会大会, 2019
- ITAHASHI, Y. Compound-specific isotopic analysis of archaeological bones to reveal prehistoric food exploitations. International seminar on archaeology of Central Asia, 2018, 国際学会
- 渋谷綾子・孫国平・劉斌・王寧遠・陳傑・宋建・岡崎健治・板橋悠・中村慎一. 歯石の残存デンプン粒を用いた長江下流域新石器時代の植物食の復元. 第 72 回日本人類学会大会, 2018
- 板橋悠・覚張隆史・菊地大樹・丸山真史・孫国平・中村慎一・米田穰. 酸素同位体比による長江下流域、田螺山遺跡への象牙製品の持ち込みの検証. 日本文化財科学会第 35 回大会, 2018
- ITAHASHI, Y, T. GAKUHARI, M. MARUYAMA, H. KIKUCHI, I. SAWADA, K.

OKAZAKI, H., TAKAMUKU, L., JIANG, G., SUN, N., WANG, B., LIU, S., NAKAMURA, M., YONEDA, M.. Dietary shift of the Neolithic rice farmers at the Lower Yangtze River region elucidated by amino acid  $\delta^{15}\text{N}$  analysis. 8th Worldwide Conference of the Society for East Asian Archaeology, 2018, 国際学会

- YONEDA, M., T. GAKUHARI, Y. ITAHASHI, G. SUN, B. LIU, N. WANG. Oxygen isotope analysis of human and animal remains from the Neolithic site of the Lower Yangtze River region in light of human and object provenance. 9th Worldwide Conference of the Society for East Asian Archaeology, 2018, 国際学会
- Shibutani, A., Sun, G., Liu, B., Wang, N., Chen, J., Song, J., Okazaki, K., Itahashi, Y. and Nakamura, S. Plant Food in the Neolithic Lower Yangtze Area, China from Starch Granules of Human Dental Calculus. 10th Worldwide Conference of the Society for East Asian Archaeology, Nanjing University, Nanjing, China, 2018-06-10, 国際学会
- Miyata, Y., Kubota, S., Kobayashi, M., Nishida, Y., Horiuchi, A., Miyauchi, N., Yoshida, K., Sun, G., Wang, Y. and Nakamura, S. Paleo diets reconstructed from food residue in pottery in Lower Yangtze area using lipid analysis and compounds-specific and bulk stable isotope composition. 10th Worldwide Conference of the Society for East Asian Archaeology, 2018, 国際学会
- 渋谷綾子・孫国平・劉斌・王寧遠・陳傑・宋建・岡崎健治・板橋悠・中村慎一. 人骨の歯石の残存デンプン粒からみた長江下流域新石器時代の植物食. 考古学研究会第64回総会・研究集会, 2018
- 米田穰・覚張隆史・板橋悠. 長江下流域における新石器時代の生活と社会ー化学分析による最新研究ー. 総合稲作文明学シンポジウム「長江流域における文明形成ー考古学と関連科学の最前線ー」, 東京都文京区東京大学, 2017, 招待講演
- 板橋悠・覚張隆史・孫国平・菊地大樹・丸山真史・米田穰・中村慎一. 炭素・窒素安定同位体比分析による中国長江流域の大型哺乳類の種同定. 日本文化財科学会大会34回大会, 2017
- 米田穰・覚張隆史・板橋悠. 同位体生態学からみた長江下流域新石器時代の稲作農耕文化. 第32回日本植生史学会大会, 2017
- 板橋悠・覚張隆史・丸山真史・菊地大樹・澤田純明・岡崎健二・高椋浩史・孫国平・王寧遠・劉斌・中村慎一・米田穰. 食性復元に基づく長江下流域の新石器農耕民の水田漁撈経済の検証. 第71回日本人類学会大会, 2017
- 澤田純明・佐伯史子・板橋悠・米田穰・覚張隆史・久保田慎二・王冬冬・呂夢・中村慎一・孫国平・黄渭金. 中国南部の田螺山・河姆渡遺跡から出土した初期新石器時代人骨群の古病理学的所見. 第71回日本人類学会大会, 2017
- 渋谷綾子. 晩ご飯は何? 資料のデンプンから探る昔の食べ物. 第400回国立歴史民俗博物館講演会, 2017

- 岡崎健治・高椋浩史・米元史織・川久保善智・覚張隆史・板橋悠・米田穰・陳傑. 頭蓋計測値からみた長江デルタ新石器時代集団: 初期水田稲作の担い手についての検討. 第71回日本人類学会大会, 2017
- 宮田佳樹・久保田慎二・小林正史. 陶器脂質残留分析技術在考古学中的应用. 華夏考古学術論壇 第四期, 2017, 国際学会
- 米田穰・岸田快生・那須浩郎・菊地有希子. 同位体生態学による先史時代の農耕活動に関する基礎的研究. 日本第四紀学会 2016年大会, 千葉県千葉市千葉大学, 2016
- 米田穰. 高精度年代測定および稲作農耕文化の食生活・健康への影響評価. 第1回日中合総合稲作文明学シンポジウム, 中華人民共和国浙江省杭州市, 2016, 国際学会, 招待講演
- Yoneda, M., H. Kikuchi, M. Maruyama, G. Sun. Carbon and Nitrogen Isotope Analyses on the Neolithic Human, Animal and Plant Remains from the Tianluoshan Site, Zhejiang Province, China. 7th Worldwide Conference of the Society of East Asia Archaeology, Boston, U.S.A., 2016, 国際学会
- Yoneda, M., K. Yamazaki, K. Kisida, Y. Kikuchi, H. Nasu. Isotope ecology of ancient rice paddy of prehistoric Japan. 10th International Conference on Applications of Stable Isotope Techniques to Ecological Studies, 東京都文京区東京大学, 2016, 国際学会
- 米田穰・孫国平・丸山真史・菊地大樹・松井章. 中国浙江省田螺山遺跡における新石器時代のヒトと動物の炭素・窒素同位体比. 第69回日本人類学会大会, 東京都江東区産業総合研究所臨海副都心センター, 2015
- Yoneda, M., T. Omori, H. Ozaki, K. Yoshida. New AMS facility in an exhibition hall of UMUT. The 6th East Asia Accelerator Mass Spectrometry Symposium, Taipei, Taiwan, 2015, 国際学会
- 米田穰・孫国平. 中国浙江省田螺山遺跡における新石器時代の動物とヒトの炭素・窒素同位体比分析. 日本動物考古学会第3回大会, 奈良県奈良市奈良文化財研究所, 2015

〈公募研究〉計 27 本 (内国際学会 6 本)

- 高椋浩史・岡崎健治・米元史織・川久保善智・大野憲五・富田啓貴. 長江下流域における新石器時代集団の四肢骨形態. 第73回日本人類学会大会, 2019
- 覚張隆史. Sr 同位体分析に基づく中国新石器時代におけるヒトの移動復元. 第73回日本人類学会, 2019
- 松永篤知. 中国新石器時代の箕についての予察. 第3回箕の研究会, 2019
- 久保田慎二・秦小麗・吉開将人・小柳美樹・植林啓介・楊平・神谷嘉美・松永篤知・中村慎一. 長江下流域における物質文化の変遷と社会の複雑化. 第85回日本考古学協会総会, 2019
- 松永篤知. 縄文時代の編布—織布以前を考える—. 令和元年度十日町市博物館講座 郷

土の遺産VIII「編布と織布」, 2019, 招待講演

- 松永篤知. 弥生の箕、東アジアの箕. 第4回箕の研究会, 2019
- 松永篤知. 縄文時代の編物とその周辺—もじり編みを中心に—. 『縄文時代の植物と編み物再発見事業』報告会「おおむかしのあさひまち 縄文時代の植物と編物」, 2019, 招待講演
- 松永篤知. 中国先史時代の編物. 日本中国考古学会 2018 年度大会, 2018, 国際学会
- 久保田慎二. 田螺山与良渚的炊器用途和稻米的料理方法. 浙江省文物考古研究所良渚工作站講座, 2019, 招待講演
- S. Kubota, M. Kobayashi, Y. Miyata, G. Sun, Y. Wang, S. Nakamura. Rice Cooking Method in Hemudu Culture at the Tianluoshan Site, Zhejiang Province, China. Eighth Worldwide Conference of The Society for East Asian Archaeology, 2018, 国際学会
- 久保田慎二. 新石器時代長江下游的炊器利用与其演变. 中国考古学研究・第2届中日論壇, 2018, 国際学会
- 久保田慎二・小林正史・宮田佳樹・北野博司・劉斌・王寧遠・陳明輝・中村慎一. 良渚文化の蒸し調理と土器の使い分け—良渚遺跡群美人地遺跡を例として—. 日本中国考古学会 2018 年度大会, 2018
- 山岸洋貴・片岡太郎・Dinh Thi Lam・石川隆二. 北日本に生育するヒシの系統解析について. 水草研究会 第41回全国集会, 2019
- 山岸洋貴・片岡太郎・Dinh Thi Lam・石川隆二. 日本産ヒシ属植物の系統地理に関する研究. 日本生態学会第67回全国大会, 2019
- 山岸洋貴・片岡太郎・Dinh Thi Lam・石川隆二. 日本産ヒシ属植物集団の遺伝的多様性に関する研究. 日本生態学会第66回神戸大会, 2019
- Dinh Thi Lam・湯陵華・山岸洋貴・片岡太郎・石川隆二. 葉緑体ゲノムからみたヒシの進化と栽培化. 日本育種学会第135回講演会, 2018
- Masashi Maruyama, Hiroki Kikuchi, Masaki Eda, Ying Zhang, Shu Song, Jada Ko, Chong Yu, Sun Yat-sen, Guoping Sun. Examining the Environmental Adaptation Strategies During the Chinese Neolithic Period in the Lower Yangtze River Valley through the Faunal Materials from the Site of Tianluoshan (7000-5500 cal BP). International Council for Archaeozoology 13th Conference, 2018, 国際学会
- Masaki EDA, Hiroki KIKUCHI, Masahi MARUYAMA, Guoping SUN. The oldest poultry in East Asia: Immature goose bones from Neolithic Tianluoshan, China. International Council for Archaeozoology 13th Conference, 2018, 国際学会
- Masaki EDA. Morphological microevolution of red junglefowls and chickens under domestication process. 9th ICAZ Bird Working Group Meeting, 2018, 国際学会
- 江田真毅. 遺跡資料同定のためのガン類の骨形成に関する基礎的研究. 第6回動物考古学会, 2018



- Yoshimi Kamiya, Takayuki Honda, Bin Liu, Ningyuan Wang, Guoping Sun, Shinichi Nakamura. Analysis of the lacquer ware excavated from the ruins of the Yangtze Valley in the Neolithic. Pyro2018 : 22nd International Symposium on Analytical and Applied Pyrolysis, 2018, 国際学会
- 大川裕子. 中国古代のため池灌漑－南陽・淮域における連珠式灌漑を中心に－.水資源セミナー「スリランカの伝統的水資源施設の持続的管理の鍵を探る」, 2017, 招待講演
- 大澤正昭・村上陽子・大川裕子. 明清時代の二つの農書－現地調査を踏まえて、環境的制約とその超克を考える－. 上智史学会, 上智大学, 2016
- 覚張隆史・板橋悠・岡崎健治・高椋浩史・宋建・陳傑・孫国平・劉斌・米田穰・中村慎二. 新石器時代の長江下流域における移民率の評価. 日本文化財科学会, 東北芸術工科大学 山形県山形市, 2017
- 覚張隆史・板橋悠・岡崎健治・高椋浩史・宋建・陳傑・孫国平・劉斌・米田穰・中村慎二. 新石器時代の長江下流域における移民率の評価. 第34回日本文化財科学会, 2017
- 覚張隆史・板橋悠・岡崎健二・高椋浩史・宋建・陳傑・孫国平・王寧遠・黄渭金・劉斌・中村慎一・米田穰. 新石器時代の長江下流域におけるヒトの移動性に関する研究. 第71回日本人類学会, 2017
- Masaki EDA, Peng LU, Yunbing LUO and Jing YUAN. Morphological microevolution of chickens in the East Asia under domestication process: a statistical point of view. Seventh Worldwide Conference of the Society for East Asian Archaeology, Cambridge, USA, 2016, 国際学会

〈総括班〉

- 若林賢・鶴野愛美・熊谷真彦・澤藤りかい・覚張隆史・稲田健一・鯨本真友美・梅崎昌裕・米田穰・植田信太郎・小川元之・太田博樹. 人糞および糞石からのDNA抽出および分析技術の改良. 第72回日本人類学会大会, 2018
- Tetsuro Udatsu. Investigation by Phytolith Analysis of Ancient Paddy Fields around the Site of Yangjiajuan, SEAA Conference, Nanjing, 2018
- 宮田佳樹・南雅代・中村俊夫・下濱貴子・畑山智史・長尾誠也・多田洋平・佐野雅規・中塚武. 水稲稲作導入から安定期にかけての北陸地方の遺跡環境復元－八日市地方遺跡(石川県小松市)を例として－. 第3回名古屋大学宇宙地球環境研究所シンポジウム, 2018
- 久米正吾・アイダ・アブディカノワ・早川裕弐・宮田佳樹・金田明美・新井オニ・大沼克彦. ユーラシア古代遊牧社会形成の比較考古学－キルギス、ナリン川流域での日本－キルギス合同考古学調査(2016年)－. 第24回西アジア発掘調査報告会, 池袋サンシャインシティ文化会館(東京都・豊島区), 2017
- 金原正明. 長江下流域の新石器時代における古環境と農耕の諸段階. 総合稲作文明学

シンポジウム「長江流域における文明形成ー考古学と関連科学の最前線ー」, 東京大学 (東京都・文京区), 2017

- 米田穰. 骨の化学分析で見えてきた中国新石器時代の稲作農耕と雑穀文化. 日中国際共同研究成果講演会「人類学から迫る古代長江流域の稲作農耕民」, 下関市教育センター (山口県・下関市), 2017
- 堀内晶子・下釜和也・久米正吾・吉田邦夫・宮田佳樹. 前期青銅時代のシリア Tell Rumeilah 墓群に残された土器の残留有機物分析. 日本文化財科学会第 34 回大会, 2017
- 横幕真・畑山智史・佐藤巧庸・宮田佳樹. 加賀三湖周辺における水産資源利用ー自然科学分析を中心とした小松市大谷山貝塚の基礎的研究ー. 第 5 回日本動物考古学会, 2017
- 宮田佳樹・堀内晶子・吉田邦夫・中村俊夫・高田秀樹. 真脇遺跡出土土器の残存有機物分析. 第 5 回日本動物考古学会, 2017
- 宮田佳樹・堀内晶子. 礼文島浜中 2 遺跡出土土器の残存有機物分析-海獣の痕跡を探して-. 日本セトロジー研究会第 28 回, 2017
- Miyata, Y., Minami, M., Nakamura, T., Shimohama T., Tada, Y., Sano, T. and Nakatsuka, T. Radiocarbon dating on archaeological remains from the Youkaichijikata site, Ishikawa, Japan. 14th International Conference on Accelerator Mass Spectrometry, 2017, 国際学会
- 宮田佳樹・堀内晶子・宮内信雄・吉田邦夫. 土器残存有機物の脂質と安定同位体組成による縄文時代の海産物利用の評価. 第 35 回有機地球化学シンポジウム, 2017
- 堀内晶子・宮田佳樹. 分子レベル安定同位体比分析から見えてくる古代の生活環境. 2017 年度日本質量分析学会同位体比部会, 2017
- 宮田佳樹・堀内晶子・宮内信雄・吉田邦夫. 土器脂質分析ラボの構築ーMALT. 2017 年度日本質量分析学会同位体比部会, 2017
- 荻山琴美・金原正明・金原裕美子・赤津將之. 牽牛子塚古墳出土夾紵棺片の科学調査. 日本文化財科学会第 34 回大会, 2017
- 金原正明. 環境を読み解く. 東名遺跡シンポジウム 2016 縄文の奇跡! 東名遺跡, 佐賀県立美術館ホール (佐賀県・佐賀市), 2016
- 板橋悠・孫国平・澤田純明・丸山真史・菊地大樹・中村慎一・米田穰. アミノ酸窒素同位体比分析による中国、田螺山遺跡における初期稲作農耕民の食性. 第 70 回日本人類学会大会, 新潟市民プラザ (新潟県・新潟市), 2016
- 米田穰. 骨から語る過去の食生態. 第 70 回日本人類学会大会, 新潟市民プラザ (新潟県・新潟市), 2016
- 宮田佳樹. 土器の科学分析からみた食と調理. 金沢大学公開講座「人類学と考古学の最前線ー先端科学による新発見ー」, 金沢大学サテライト・プラザ (石川県・金沢市), 2016
- 米田穰. 人骨の最新の分析方法から個人にせまる. 雄山閣百周年記念考古学シンポジウム「考古学 100 年学際研究のいま」, 大江戸博物館 (東京都・墨田区), 2016

- 細谷葵. 民族考古学と化学分析からさぐる生業活動の諸相. 日中合同 総合稲作文明学シンポジウム, 杭州市 (中国), 2016, 国際学会
- 宇田津徹朗. イネの栽培化と植物質食料資源の開発. 日中合同 総合稲作文明学シンポジウム, 杭州市 (中国), 2016, 国際学会
- 米田穰. 最新骨化学によるヒトの生態復元. 金沢大学公開講座「人類学と考古学の最前線～先端科学による新発見～」, 金沢大学サテライト・プラザ (石川県・金沢市), 2016
- Miyata, Y., Horiuchi, A., Cramp, L., Kondo, M., Sakamoto, M., Yoshida, K., Onbe, S., Nagao, S., Minami, M. and Nakamura, T., Nishimoto T., and Evershed, R. P. Reconstruction of archaeological remains at the late Jomon period from Rebun Island in Japan: in terms of reservoir effect, stable isotope analysis, lipid analysis and compound specific isotope analysis. The 8th international symposium on Radiocarbon and archaeology, Edinburgh (UK), 2016, 国際学会
- Miyata, Y., Kume, S., Abdykanova, A., Chargynov, T. and Ohnuma, K. Radiocarbon data from archeological sites in Kyrgyzstan. The 8th international symposium on Radiocarbon and archaeology, Edinburgh (UK), 2016, 国際学会
- 金原正明・西田巖・金原美奈子・渡邊英明. 東名遺跡 (縄文時代早期) における環境変遷と生業. 日本文化財科学会第 33 回大会, 奈良大学 (奈良県・奈良市), 2016
- 宇田津徹朗・田中克典. イネプラント・オパール中に内在する遺伝情報抽出手法構築に向けた基礎的研究 (第 2 報). 日本文化財科学会第 33 回大会, 奈良大学 (奈良県・奈良市), 2016
- 宮田佳樹・南雅代・中村俊夫・下濱貴子・長尾誠也・多田洋平・佐野雅規・中塚武. 動物骨の放射性炭素年代と安定同位体組成を用いた水稲稲作安定期の北陸地方の遺跡環境復元-八日市地方遺跡を例として-. 日本文化財科学会第 33 回大会, 奈良大学 (奈良県・奈良市), 2016
- 堀内晶子・宮田佳樹. 同一土器内における残留有機物質の分布から見える分析結果の解釈の注意. 日本文化財科学会第 33 回大会, 奈良大学 (奈良県・奈良市), 2016
- 米田穰. 化学分析で読み解く古代人の食生活. 第 109 回分子科学フォーラム市民公開講座, 岡崎コンファレンスセンター (愛知県・岡崎市), 2016
- 細谷葵. 民族考古学と化学分析からさぐる生業活動の諸相. 稲作と中国文明－総合稲作文明学の新構築－ キックオフシンポジウム, 奈良教育大学 (奈良県・奈良市), 2016
- 宇田津徹朗. イネの栽培化と植物質食料資源の開発. 稲作と中国文明－総合稲作文明学の新構築－ キックオフシンポジウム, 奈良教育大学 (奈良県・奈良市), 2016
- 宮田佳樹・南雅代・下濱貴子・長尾誠也・多田洋平・佐野雅規・中塚武・中村俊夫. 動物骨の放射性炭素年代と安定同位体組成からみる水稲農耕展開期の北陸地方の遺跡環境－八日市地方遺跡を例として－. 第 1 回名古屋大学宇宙地球環境研究所シンポジウム, 名古屋大学 (愛知県・名古屋市), 2016

- Miyata, Y., Minami, M., Nakamura, T., Shimohama, T., Nagao, S., Tada, Y., Sano, T. and Nakatsuka, T. Comprehensive study of reservoir effects deduced from radiocarbon dates on archaeological remains from the Youkaichijikata site, Ishikawa, Japan. 22nd International Radiocarbon Conference. Dakar (Senegal) , 2015
- 田中克典・宇田津徹朗. プラント・オパールからの DNA 復元. 日本文化財科学会第 32 回大会, 東京学芸大学 (東京都・小金井市) , 2015

〈国際活動支援班〉

- 中村慎一. 新石器時代晩期における地方文明間の威信材交換. 学術変革領域《中国文明起源》キックオフシンポジウム, 2021
- 米田穰. 同位体分析から見たヒトとモノの動態復元, 学術変革領域《中国文明起源》キックオフシンポジウム, 2021
- 中村慎一. 学際研究から探る中国稲作文明の起源. 金沢大学超然プロジェクト「古代文明の学際研究の世界的拠点形成」シンポジウム, 2021
- 米田穰. 土器付着炭化物と人骨;の同位体比の比較. 第 74 回日本人類学会大会, 2020
- 中村慎一. 中国稲作文明の起源と展開－『水』をキーワードに－. 日本考古学協会第 85 回 (2019 年度) 総会, 2019
- 中村慎一・米田穰. 総合稲作文明学における骨考古学の成果とその考古学的意義. 第 73 回日本人類学会大会骨考古分科会シンポジウム「長江デルタ稲作農耕民の骨考古学」, 2019
- Masashi KOBAYASHI, Shinji KUBOTA, GouPing SUN, YongLei WANG. Cooking pottery use-wear analysis to reconstruct rice cooking methods of early rice farmers in Japan and Middle China. The 7th Worldwide Conference Of SEAA, Boston (USA) , 2016

### 3. 図書

〈A01 計画研究〉

- 秦小麗『中国初期国家形成の考古学的研究－土器からのアプローチ』六一書房, 278 頁, 2017
- 秦小麗・中村慎一『黄河流域におけるトルコ石製品の生産と流通 (金沢大学文化資源学研究 Vol.19)』金沢大学国際文化資源学研究センター, 67 頁, 2018
- 吉開将人 (共著)『中国文化事典』丸善出版, 784 頁, 2017
- 原田幹『東アジアにおける石製農具の使用痕研究』六一書房, 319 頁, 2017
- 袁広闊・秦小麗『早商城市文明的形成与発展』科学出版社, 266 頁, 2016

〈A02 計画研究〉

- 三輪一雄・黒住耐二監修『こちらムシムシ新聞社～カタツムリはどこにいる？～』偕成社, 40 頁, 2018
- 金原正明・丸山真史・黒住耐二ほか『縄文の奇跡！東名遺跡』雄山閣, 279 頁, 2017
- 小畑弘己『歴史文化ライブラリー タネまく縄文人—最新科学が覆す農耕の起源』吉川弘文館, 217 頁, 2016
- Itoh・Keiji Takemura・Hideki Takada・Shogekazu Kusumoto・Tsuyoshi Haraguchi・Toshio Nakamura・Masaaki Kanehara. *Holocene Paleoenvironmental Change in Far East*. Science Publishing Group, p. 128, 2016

〈A03 計画研究〉

- 庄田慎矢「中国新石器時代の土器から見つかった蜜蝋の化学的証拠をめぐって」『河姆渡と良渚 中国 稲作文明の起源』雄山閣, 12 頁, 2020
- 小林正史・久保田慎二「良渚文化の蒸し調理の特性」『河姆渡と良渚：中国稲作文明の起源』雄山閣, 12 頁, 2020
- 久保田慎二・小林正史「河姆渡文化と粥」『河姆渡と良渚：中国稲作文明の起源』雄山閣, 10 頁, 2020
- 細谷葵「コメと倉—バリ島稲作社会の民族考古学調査」,海老澤衷編『アジア遊学 230 世界遺産バリの文化戦略～水稲文化と儀礼がつくる地域社会』勉誠出版, 53 頁, 2019
- 庄田慎矢編『アフロ・ユーラシアの考古植物学』クバプロ, 264 頁, 2019
- 庄田慎矢「土器で煮炊きされた植物を見つけ出す考古生化学的試み」『アフロ・ユーラシアの考古植物学』クバプロ, 20 頁, 2019
- 庄田慎矢「朝鮮半島新石器時代晩期土器からのアワ圧痕の検出」『農耕文化複合形成の考古学 上』雄山閣, 20 頁, 2019
- 大川裕子「文献史料からさぐる植物と人の関係史—中国・長江下流におけるヒシ利用の歴史」庄田慎矢編『アフロユーラシアの考古植物学』同成社, 12 頁, 2019
- 細谷葵「コメと倉—バリ島稲作社会の民族考古学調査」海老澤衷編『世界遺産バリの文化戦略～水稲文化と儀礼がつくる地域社会』勉誠出版, 53 頁, 2019
- Leo Aoi HOSOYA, Masashi KOBAYASHI, Shinji KUBOTA, Guoping SUN. Rice and the Formation of Complex Society in East Asia: Reconstruction of Cooking through Pot Soot and Carbon Deposits Pattern Analysis. In Xinyi Liu, Emma Lightfoot & Dorian Fuller (eds.) *Feeding the Past: Papers in Honour of Martin Jones*, McDonald Institute Monograph series, University of Cambridge, p. 31, 2018
- 小林正史「炊飯方法の研究」『やきもの』近代文藝社, 15 頁, 2018

〈A04 計画研究〉

- 佐藤洋一郎・宇田津徹朗・平川南・猪谷富雄・花森功仁子・仲田雅博『日本のイネ品種考』臨川書店, 264 頁, 2019
- アジア考古学四学会 (田崎博之・工楽善通・中山誠二・宮本一夫・古澤義久・新田栄治・常木晃・丹野研一・笹津備当・白井則行・宗基秀明・林俊雄・青山和夫・関雄二)『農耕の起源と拡散』高志書院, 330 頁, 2017
- 田中克典・上條信彦・佐藤洋一郎『日本の出土米II 佐藤敏也コレクションの研究』六一書房, 332 頁, 2015
- 片岡太郎・上條信彦『亀ヶ岡文化の漆工芸II 北日本における先史資源利用の研究』六一書房, 106 頁, 2015

#### 〈A05 計画研究〉

- 浙江省文物考古研究所, 嘉興博物館編 (岡崎健治・高椋浩史・板橋悠・覚張隆史・米田穰・渋谷綾子)『馬家浜』文物出版社, 390 頁, 2019

#### 〈公募研究〉

- 江田真毅・小杉康編 (江田真毅・小杉康・高倉純・高瀬克範・守屋豊人・山本正伸著)『考古学からみた北大キャンパスの 5,000 年』中西出版, 96 頁, 2019

#### 〈総括班〉

- Yasto Itoh, Keiji Takemura, Hideki Takada, Shogekazu Kusumoto, Tsuyoshi Haraguchi, Toshio Nakamura, Masaaki Kanehara. *Dolphin Bones in Mawaki Archaeological Site: Holocene Paleoenvironmental Change in Far East*, Science Publishing Group, p. 128, 2016
- 米田穰 (共著)『食の文化フォーラム 33 野生から家畜へ』ドメス出版, 294 頁, 2015

#### 〈国際活動支援班〉

- 中村慎一編『中国新石器時代文明の探求』六一書房, 305 頁, 2023
- 中村慎一編『中国江南の考古学』六一書房, 245 頁, 2022
- 中村慎一編『河姆渡と良渚』雄山閣, 280 頁, 2020
- 安斎正人・小林正史ほか『理論考古学の実践』同成社, 1036 頁, 2017
- 小林正史ほか『モノと技術の古代史 陶芸編』吉川弘文館, 290 頁, 2017

## 4. その他

### 1) 受賞

- 中村慎一、第 70 回北國文化賞、北國新聞社 (2016 年 11 月)

- 小畑弘己、第5回古代歴史文化賞大賞、島根県ほか（2017年11月）
- 米田穰、第32回濱田青陵賞、岸和田市・朝日新聞社（2019年7月）
- 中村慎一、第75回金沢市文化賞、金沢市（2021年11月）

## 2) アウトリーチ活動

### A01

日本隊が掘る中国・良渚遺跡群、読売新聞朝刊（全国版）、2019年9月11日、中村への取材

冬季連携企画展「稲作と中国文明」、2019年2月7日~3月17日、金沢大学資料館 JSPS ひらめき☆ときめきサイエンス~KAKENHI~「古代を科学する!~技術革新が考古学にもたらすもの~」、参加者:高校生10名、2018年1月21日、金沢大学（金沢市）

### A02

NHK サイエンスゼロ「見えないモノを見る!ひもとかれる歴史の謎」、2018年1月28日、小畑出演

### A03

日本と世界の食文化~食べ物から学ぶ世界地図~、2017年1月31日、国立市公民館 2.川・湖と共生知恵紹介中国長江の文化展示、京都新聞、2016年11月18日

### A04

JSPS ひらめき☆ときめきサイエンス~KAKENHI~「土の粒子から農業や環境の歴史を科学する」、参加者:中学生14名、2019年7月30日、宮崎大学（宮崎市）

JSPS ひらめき☆ときめきサイエンス~KAKENHI~「土の粒子から農業や環境の歴史を科学する」、参加者:中学生17名、2018年8月1日、宮崎大学（宮崎市）

### A05

研究速報展「骨からよみがえる古代中国長江流域の稲作農耕民」、2020年4月28日~5月31日（予定）、土井ヶ浜遺跡・人類学ミュージアム

日中国際共同研究成果講演会「人類学から迫る古代長江流域の稲作農耕民」、2017年2月18日、下関市教育センター

### (1)「田螺山キャンプ」の実施

「田螺山キャンプ」は本領域における若手研究者育成の「目玉」事業である。約7000年前の河姆渡文化に位置付けられ、豊富な有機質遺物が出土したことで世界的に著名な田螺山遺跡において、中国考古学・考古科学（文化財科学）分野の人材育成プログラムを実施することを主な内容とする。本領域では第2年度から第4年度にかけて計3回を実施し、4つの国と地域（日本・中国・香港・アメリカ）から、ハーバード大学やスタンフォード大学、北京大学、山東大学、東京大学などの大学院生や若手研究者、延べ10名が参加した。10名中8名が30歳以下の大学院生やポスドクであり、残りの2名も35歳以下の

若手研究者である。参加者は2週間におよぶキャンプの間、自らの専門に関わる出土遺物の調査や試料採取を進め、同時に参加者の研究発表や領域メンバーの成果報告を通じて研究交流を進めた。その結果、相互の研究内容に関する理解が深まり、キャンプ終了後に本領域との継続的な共同研究へ発展させることに成功した。

具体的には、2016年に参加した北京大学・宋殷、2018年に参加した中国科技大学・易冰の2名は、田螺山キャンプを通してA05の米田・宮田から紹介された炭素窒素同位体比分析および土器残存脂質分析に興味を示し、それぞれ来日して具体的な分析作業を習得する機会を得た。また、来日中は東京大学の公開セミナー等で発表を行い、日本人学生との研究交流を行った。今後の学位論文等についても、継続的に共同研究を行うことになっている。また、2017年に参加したハーバード大学・Jada Ko、2018年に参加した中山大学・余翀についても、A02の菊地・丸山、公募研究の江田と共同研究を進めている。田螺山キャンプへの参加を通して日本で蓄積された精緻な動物考古学の方法論を学び、その成果について日本で2019年に本領域が主催した国際研究集会「Faunal Utilization During the Prehistoric Age in the Pan-East China Sea Region（环东海史前时代的动物利用）」で発表したほか、2018年にトルコで開催された国際動物考古学会でも本領域の一員として発表を行った。

以上のように、「田螺山キャンプ」とその後のフォローアップを通じて、当初の予想を超えて若手研究者の育成を進めることができた。若手研究者との交流は本領域にとっても新たな研究を開始するよい呼び水となっており、研究期間終了後にも続く共同研究の芽を育てることができたと考える。

## (2) 公募研究による若手研究者の参加

本領域では、第2年度に4件、第4年度に8件の公募研究を採択し、計10名の研究者が領域に参画した。そのうちの4名は若手研究者であり、採択時の年齢で考えれば6名が39歳以下であったことになる。つまり、公募研究採択者の過半数は若手研究者あるいはそれに近い年齢の研究者となる。

当然、これは採択者の研究内容が領域の求めるものであった結果であるが、本領域としてもできる限り若手研究者の採択を希望していた。その理由の一つは言うまでもなく研究者育成のためである。しかし、それ以外に多くの若手研究者が学際的な視点から研究を進めており、本領域が求める異分野融合の推進と親和性が高いためである。結果的に、本領域の研究の空白を埋め、領域メンバーとの積極的な共同研究も実現することとなった。

## (3) 海外調査における若手研究者・大学院生の帯同

毎年、夏季と冬季に中国で行った領域メンバーによる合同調査には、必ず大学院生を含む若手研究者を複数名帯同するようにした。その人数は延べ30名を超え、特に木器や



人骨等の分析作業には、継続して若手研究者が参加した。その結果、分析方法や調査技術の習得だけではなく、ともに調査に参加した異分野の研究者や海外研究者との交流の機会を提供することができ、今後、若手研究者が独立して調査・研究を行う基盤の形成に貢献できた。

### 3) 研究成果による産業財産権の出願・取得状況

なし

## 研究成果

### 1. 研究項目 X00 総括班

本領域の目的である「総合稲作文明学」という新たな学術領域の創成を実現するためには、計画研究、公募研究の別にかかわらず、すべての研究グループが一致団結し、目標達成に邁進する必要がある。そのための領域全体の舵取りと研究推進の後方支援が総括班のミッションであり、本領域メンバーから最大限の研究パフォーマンスを引き出す司令塔的役割を担った。具体的には、計画グループ間の連携推進、研究者間の情報共有、公募研究の募集方針策定、人材育成プログラム「田螺山キャンプ」の立案と実施など、領域全体に係る活動を担った。また、予算の適正な管理、研究参加者の安全確保、関連法規の遵守などに関して絶えずチェックを行った。さらに、研究成果の発信も総括班の重要な役割である。論文作成や学会発表に加え、領域ウェブサイトの更新、ニュースレターの編集・発行、公開講演会の開催、博物館における成果展示、「ひらめき☆ときめきサイエンス」プログラムの実施などを計画した。

その他、領域全体の研究進捗状況を定期的にチェックし、その都度適切な指導・助言を行うための組織としてアドバイザーボードを設置した。形式的には広義の総括班の中に含まれるが、その職務の性格上、領域の研究活動には直接参画しないものとした。

以上に挙げた目標は、5年間の活動で十分に達成できたと考える。まず、領域における研究の方向性の決定等、全体の活動に関わる事項については、5年間で16回にわたり開催した総括班会議において、総括班メンバーが一堂に会して意見交換を行ってきた。また、計画グループ間の連携推進や研究者間の情報共有は、毎年2回、総括班が中心となって開催する成果報告会を兼ねた全体会議を利用し、相互の研究状況の確認や共同研究の推進を促す場を設けた。特に領域全体に関わる研究情報については積極的に総括班から全体にアナウンスしたほか、研究成果の融合によるシナジーを期待し、総括班による研究内容のマッチングも行ってきた。その結果、(2)に挙げる斬新な視点による融合研究を多く生み出した。

成果の発信は、主に領域の事務全般を進めるために設置した領域事務局が担った。全体の枠組みと方向性は総括班会議で決定し、ウェブサイトの運営や講演会開催等に係る一切の業務は事務局担当の特任助教が行うことで、迅速かつ正確に成果を発信する体制を整えた。

なお、アドバイザーボードは、甲元真之（熊本大学・名誉教授・東アジア考古学）、中橋孝博（九州大学・名誉教授・自然人類学）、佐藤洋一郎（京都府立大学・特別専任教授・植物遺伝学）、趙輝（北京大学・教授・中国考古学）の4名からなる。いずれも、本領域に深く関わる分野の権威である。中間評価をはじめ適宜、研究に関する助言を得ることができ、当初企図した機能を十分に果たしたと言える。

## 2. 研究項目 Y00 国際活動支援班

中国における農耕起源や文明起源の問題は、その世界史的な重要性から、欧米の研究者も重大な関心を寄せてきた。ただし、発掘報告書や論文の大部分は中国語で執筆されるため、これまでは漢字に慣れ親しんだ日本人が優位な立場にあった。しかし、近年、欧米諸国に留学する中国人研究者が増加し、彼らの英語による論文執筆を通じて、欧米人研究者でも豊富な学術情報が利用できるようになった。

このような世界的な学術動向の転換期を迎え、本領域の研究成果も日中両国のみならず、英語圏を中心とする世界的な研究動向に位置付けていく必要がある。日本考古学の研究レベルは、その精緻かつ丁寧な分析方法に支えられ、世界的に見ても高水準にあると評価される。また、本領域はこれまで中国国内で実施されたことのない規模の多様な専門を持つ研究者が集うプロジェクトである。したがって、その研究成果を国際学会や英語論文作成、英文ウェブページ公開、国際的に著名な研究者の招聘と交流等の手段を通して海外に向けて発信することで、日本人研究者の中国文明研究に対する国際的評価を高め、結果的に我が国学術界の国際的プレゼンス向上にも寄与することが期待できる。

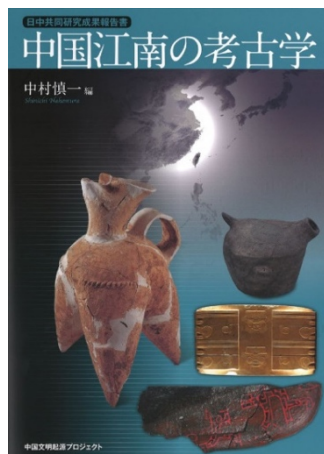
これまでの5年間の主な活動を挙げると、まず本領域の立ち上げ当初に英文ウェブページを公開し、研究の目的や内容、活動の国際的な周知に努めた。国際学会は、2016年度および2018年度に世界的な考古学会である Society for East Asian Archaeology (SEAA) や World Archaeological Congress (WAC) でセッションを開催し、本領域の研究過程や成果について世界の第一線で活躍する考古学者と意見交換を行った。また、毎年、夏季と冬季を中心に海外から複数名の研究者を招聘し、国際シンポジウムや講演会を開催した。その数は優に10回を超える。また、Scientific Reports、International Journal of Paleopathology、Archaeological Research in Asia、Archaeological and Anthropological Sciencesをはじめ、各分野の主要雑誌に多くの英語論文を発表した。その多くは国際共著論文であり、論文作成過程における研究者間の調整等で国際活動支援班が大きな役割を果たした。

その他、「田螺山キャンプ」を特筆に値する活動として挙げうる。「田螺山キャンプ」は日本を含むさまざまな国籍の若手研究者が一堂に会して自由な研究を行う若手研究者育成プロジェクトである。本領域では2016～2018年度にかけて毎年1回開催し、日本、中国、アメリカ、香港から計10名の若手研究者が参加した。その結果、若手研究者の育成のみならず、参加者を通して本領域の活動が国際的に周知され、海外のさまざまな研究者の知るところとなった。中には、本領域の活動内容を高く評価し、領域メンバーのもとでの研究活動を志望する大学院生も現れた。このように、「田螺山キャンプ」を通じた活動が本領域の国際的評価につながったことは予想外の収穫であった。

上記以外にも、中国側との研究協定の締結、領域メンバーの調査日程の調整など、国際活動支援班が果たした役割は大きい。縁の下の力持ちとして、当初計画した活動目標を十分に達成できたと考える。

最終年度に開催予定であった2回の国際研究集会については、中国側研究者多数を招き、良渚文明の終焉とその後の新石器時代晩期地方文明の形成に焦点を当てた内容を企画していた。しかし、COVID-19は収束の兆しを見せず、2020年度については5月、8月、11月の3回にわたり国際活動支援班会議（オンライン）を開催し、国際活動に関する計画とその実施について意見交換を行った。2021年度については4月と12月に国際活動支援班会議（オンライン）を開催し、国際活動に関する計画とその実施について意見交換を行った。特に、日中両国におけるCOVID-19の流行状況を見据えながら、実施可能な国際活動について随時検討を行った。しかし、最終年度の2022年度においても結果的に開催を断念せざるを得ない状況となった。

相互訪問が叶わなかった代替措置として、頻繁にメールやオンライン会議により中国ならびに諸外国の研究者と情報交換と成果共有を進めた。それが、『河姆渡と良渚：中国稲作文明の起源』（中村・劉（編）、雄山閣、2020年12月）、日中共同研究成果報告書I『中国江南の考古学』（中村慎一（編）、中国文明起源プロジェクト刊行、2021年3月）の出版、最終年度では、日中共同研究成果報告書II『中国新石器時代文明の探求』（中村慎一（編）、中国文明起源プロジェクトおよび六一書房、2023年3月）の出版として結実した。



### 3. 研究項目 A01~05

本領域では、従来の中国文明研究では軽視されてきた稲作と文明形成との関わりにスポットを当て、考古学を中心に、歴史学、地理学、植物学、動物学、人類学、農学、地球化学、年代学等を専門とする多彩な研究者が一丸となり、「総合稲作文明学」という新たな学術領域の創成に挑む。具体的には、1 アジア稲作発祥地としての中国におけるイネ栽培化プロセスの高精度復元、2 長江流域に成立した新石器時代稲作文明の興亡にかかる原因究明、3 青銅器時代以降の中国文明において稲作文明が果たした役割の解明、の3点を中心に研究を進める。それらを通じて、稲作に基盤を置く世界で唯一の古代文明としての中国文明の特質を解明し、その強靱なレジリアンスの源泉について新たな洞察を得る。

これらの目的を達成するにあたり、最も重視すべきは現地調査である。本領域に参画する研究者は40名を超えるため、毎年、夏季と冬季にコア期間を設け、多くの領域メンバーが同時に調査を行える体制を整えた。これにより、中国側共同研究機関の負担を軽減するだけでなく、メンバー間の連携を密にし、オンサイトでの研究の融合を促した。さらに、各メンバーが個人調査を行う際にも、できる限り領域全体で調査地や目的を共有し、専門を超えたメンバーの参加を推奨した。その結果、後述する専門分野の異なる研究者間の共同研究が進み、これまでにない視点からの成果が数多く生まれた。

具体的な研究の進捗として、まず「1 アジア稲作発祥地としての中国におけるイネ栽培化プロセスの高精度復元」については、A01による土器や石製農具の編年研究、A05による放射性炭素年代の測定により、詳細な年代観を把握することに成功した。その上で、A02・04による古環境の変遷およびプラント・オパール分析、DNA分析による水田立地の変遷とイネの性質の解明、A01の石器組成と使用痕分析、実験考古学的分析による耕起具と収穫具の解明、A03による水田に付随する植物栽培や灌漑に関する研究等が進められ、河姆渡文化から良渚文化におけるイネと稲作技術の複雑化過程を明らかにした。

「2 長江流域に成立した新石器時代稲作文明の興亡にかかる原因究明」は、まず良渚遺跡群の時間的下限と後続の銭山漾文化との関係についてA01を中心に検討し、良渚遺跡群が銭山漾文化まで存続した事実を指摘した。併せて、近年、良渚遺跡群から多く出土した炭化米の量的検討から、安定的なコメ貯蔵を推測した。さらに、A02・公募研究の動物考古学による家畜としてのブタの出土数の増加、A01・02による良渚遺跡群塘山地点における水利施設の構造解明、A05の古病理学的研究による結核カリエスの発見などを通し、良渚文化を一つの到達点とする長江流域稲作文明の成立と衰退の様相について考察した。

「3 青銅器時代以降の中国文明において稲作文明が果たした役割の解明」については、特に新奇性の高い成果を得ることができた。まず挙げるべきはA05が行った人骨の炭素/窒素安定同位体比分析である。これにより、良渚遺跡群内に黄河流域を中心とする雑穀を主食とする人々が存在したことが明らかとなった。これは、A02の炭化植物種子分析による良渚遺跡群におけるアワ・ヒエの発見と呼応する現象である。その他、A01の玉器の形

態・組成分析による良渚系玉器の黄河流域への拡散、公募研究のストロンチウム分析による山東から長江下流域への移入者存在の可能性なども、黄河流域と長江流域の相互交流を物語るばかりでなく、良渚稲作文明との接触が黄河流域地方文明の勃興の契機となったとする示唆を与えることともなった。

以上は、主な研究成果の一部である。当初設定した3つの目的に沿って多くの重要な知見が得られ、新しい成果を十分に挙げる事ができたと自己評価する。また、以下に示すように、大部分の研究成果は異分野融合の賜物である。稲作と中国文明の関係を検討する過程で学際研究は不可欠であり、伝統的な考古学にはない独自の視点からのアプローチこそ「総合稲作文明学」を創成する意義だと言える。

### 本研究領域により得られた成果

**A01 (計画・小柳・久保田)** ※久保田は2018年度より公募へ

・長江下流域新石器時代における土器、石器による年代観の確立:A03 班、A04 班、A05 班との共同研究

河姆渡文化と良渚文化を中心に、図1のように土器と石器の形態学的分析からその変遷を明らかにした。これにより、あらゆる研究に必要な「時間のものさし」を提供し、稲作専業社会の成立と土器・石器の変化の相関を解明した。土器はA03 班・小林による民族調査、A05 班・宮田による脂質分析との共同研究により、土器形態の変化と利用方法や生業が相互に関連することを示し、河姆渡文化の粥調理から良渚文化の蒸し米調理への変化を解明した。石器は農耕具を中心にA04 班・宇田津・田崎と共に、その形態や組成の多様化が水田の構造や立地の変化と連動し、稲作技術の向上に関わる現象であることを明らかにした。

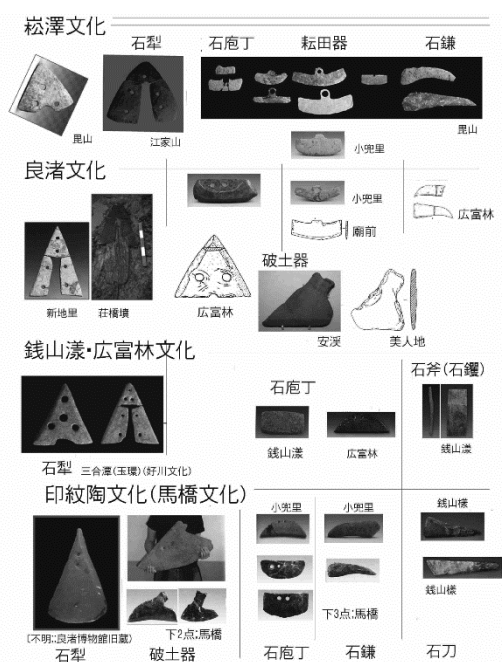


図1 石製農耕具の編年図

**A02 (計画・金原)**

・花粉分析、珪藻分析による海水準と遺跡形成の関係解明:A04 班との共同研究

各文化に属する遺跡でボーリング調査を行い、A04の田崎による堆積物の粒径分析等と合わせて、花粉分析と珪藻分析から古環境の復元を行った。その結果、図2の通り、跨湖橋文化や河姆渡文化では上下動を繰返しながら海進が進み、湖や河川沿岸の湿地で稲作が行われたが、良渚文化になると海進期が過ぎ、沖積平野の形成とその人工的排水により安定した水田稲作が可能となり、稲作専業経済への移行が促進されたと考えた。

#### A02 (計画・渡部)

##### ・地理情報システム (GIS) による 良渚遺跡群における新たな構造物の 発見：A01 と共同研究

GIS による衛星写真の分析と A01 班・中村による遺構分析により、これまで良渚囲壁や塘山土塁などの構造を明らかにしてきた。その後、同様の分析をより広範囲に継続した結果、遺跡群東部に位置する荀山付近で、図 3 に赤線で示す囲壁らしき新たな人工構造物を確認した。これは現地研究者も認識していなかった新発見であり、今後、良渚遺跡群のより大規模かつ複雑な構造を証明する重要な発見となる可能性を秘めている。

#### A03 (計画・庄田)

##### ・田螺山遺跡出土土器における東アジア最古の蜜蝋の化学的証拠の発見：A03 班との共同研究

図 4 に示す田螺山遺跡から出土した土器底部に付着する炭化物に対し A03 班の西田と共同で残存脂質分析を行ったところ、蜜蝋に由来する化合物を検出した。これは、明確な生物指標によって示された東アジアにおける最古の蜜蝋利用の直接的証拠となる。蜜蝋が検出された結果をどう解釈するかについては、蜂蜜の利用や土器内面のコーティング、調理時の偶然の混入などさまざまな可能性が残されているが、東アジアにおける蜂蜜・蜜蝋の利用を探る上できわめて重要な発見であることは間違いない。

#### A04 (計画・宇田津・田崎)

##### ・良渚遺跡群における多様な水田立地の解明とそのモデル化：A02 班との共同研究

良渚遺跡群内で広域な水田探査を実施し、埋没微地形分析やプラント・オパール分析、A02 班・渡部の GIS による微細地形面分析の結果から、図 5 に示す 3 つの水田立地モデル

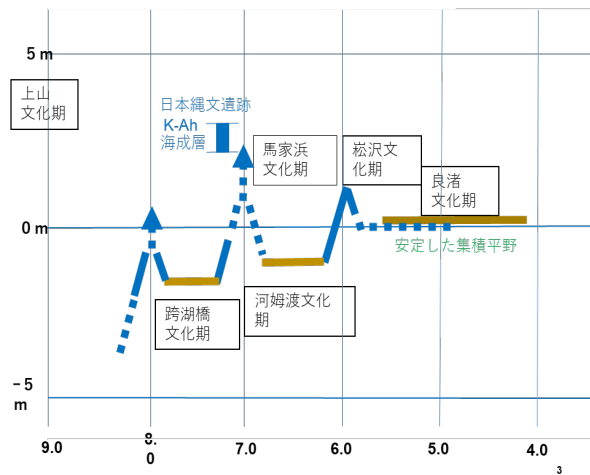


図 2 海進と各文化の消長

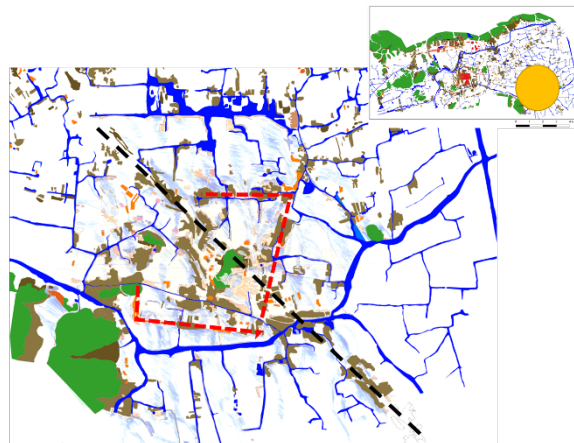


図 3 新たに発見された人工構造物



図 4 蜜蝋の科学的証拠を検出した土器底部

を構築した。このモデルは、河姆渡文化から良渚文化において、稲作が地形環境の変化に適応する過程が復元可能となり、持続性と広域な伝播力を獲得する要因が解明できた。農耕社会の基幹となる稲作技術の確立を具体的に説明する重要な成果である。

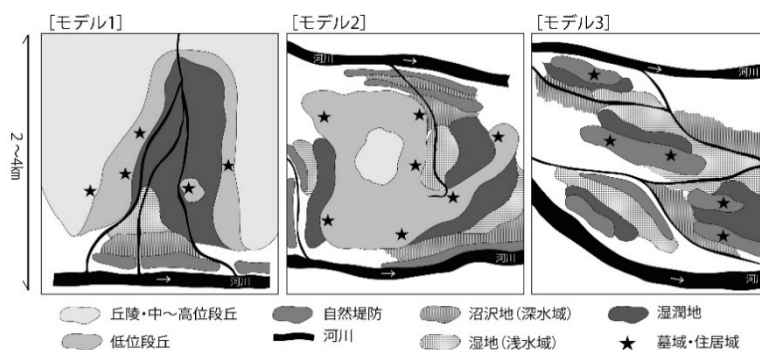


図5 良渚遺跡群で明らかとなった水田立地モデル

**A04 (計画・田中・石川・宇田津)**

**・DNA分析による良渚遺跡群における栽培イネと収量確保の状況の推定：A01班、A02班との共同研究**

出土イネのDNAを分析できる実験室を江蘇省農業科学院糧食作物研究所と共同で立ち上げ、良渚遺跡群莫角山地点出土炭化米の古代DNA分析を実施した(図6)。結果、現生のインディカやジャポニカに相当する塩基配列が復元され、稲作技術が高度化する過程で一定の多様性を保ちつつイネの収量が確保されたこと、DNA分析や種子形態の多様性から、良渚遺跡群には他地域に由来するイネが集積された可能性が示唆された。

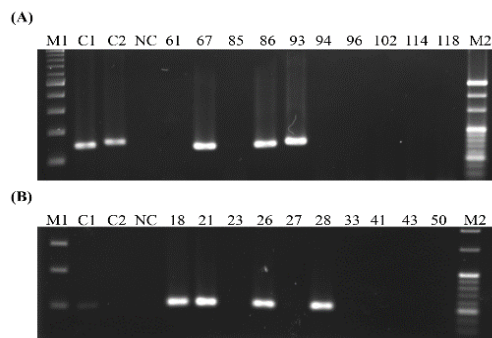


図6 莫角山遺跡から出土したイネ種子からPCR増幅された葉緑体DNAの断片

**A05 (計画・岡崎)**

**・アジア最古の脊椎カリエス人骨の発見：公募との共同研究**

公募・高椋と共同で行った上海市広富林遺跡出土女性人骨の古病理学的分析を通して、図7に示す脊椎カリエスの痕跡を発見した。脊椎カリエスは結核症の典型例である。結核症の蔓延は、集団生活や動物の家畜化と密接なかかわりを持つとされるため、農耕の発展や都市化と関連する可能性があり、稲作を基盤とする社会の成立を間接的に示すと考えられる。また、日本でも稲作開始期の弥生時代に結核症の痕跡が見つまっているため、その拡散ルートを考える上でもきわめて貴重な成果となった。

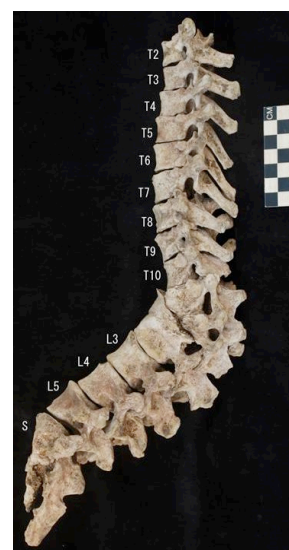


図7 脊椎カリエスの痕跡を残す人骨

#### 4. 公募研究

##### B (公募・江田)

##### ・河姆渡文化における最古の家禽としてのガチョウ利用の解明 (A02 班、A05 班との共同研究)

田螺山遺跡出土の鳥類骨の分析を通して、以下の2点を明らかにした。まず、従来、新石器時代で家禽化が進んだとされるニワトリについて、キジ科の骨のコラーゲンタンパク分析を行ったところ、ニワトリにはないアミノ酸配列のピークが認められ、その存在の可能性を排除できた。一方、ガン族の酸素同位体比分析を行うと、図8のA-C群の範囲に分布したと考えられる値に分類できた。中でも幼鳥の骨の値はすべてA群に収まる。現

生のガン類がシベリアなど大陸北部で夏季に繁殖し、温帯域に飛来するまでに骨が完成されることを考慮すると、田螺山遺跡の幼鳥は家禽、つまりガチョウであったと考えた。これは、長江下流域の最古の家禽がガチョウであったことを示す最新の発見である。

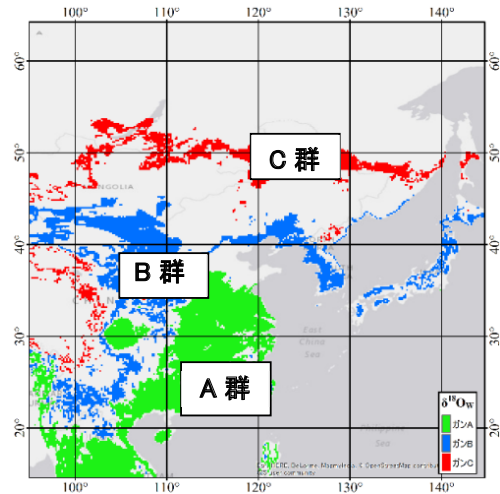


図8 田螺山遺跡出土のガン類の酸素同位体比

##### B (公募・江田)

##### ・稲作農耕社会の発展を背景とした人とカモ科鳥類の関係史

長江下流域において、稲作農耕の発展を背景にカモ科鳥類と人のかかわりがどのように変化したかを明らかにするために以下の調査・研究をおこなった。1. 跨湖橋遺跡 (約8,000-7,000年前) 出土の鳥骨を肉眼比較により同定した。8目9科を確認し、ガン族が約47%ともっとも主体的であり、これにツル科 (約21%) とカモ亜科 (約14%) が続くことが分かった。昨年度までに調査した田螺山遺跡、良渚遺跡と比較すると、跨湖橋遺跡ではツル科の利用がとくに顕著であったことが読み取れる。田螺山遺跡や良渚遺跡で認められたガン族の幼鳥や若鳥と考えられる骨は検出されなかった。2. コペンハーゲン大学自然史博物館 (デンマーク)、ヒストリックイングランドおよびサザンプトン大学 (ともにイギリス) でガン類の幼鳥の骨を調査した。その結果、少なくとも田螺山遺跡と良渚遺跡から出土した各1点のガン類の骨は4週齢~8週齢の幼鳥に由来し、越冬地に渡る以前に死亡した個体のもと考えられた。3. 田螺山遺跡から出土したガン族の骨 (成鳥と前述の幼鳥3点を含む) の酸素同位体比を測定した。その結果、ガン族



図9 田螺山遺跡出土のガン類幼鳥の骨



の成鳥の骨に田螺山の哺乳類の酸素同位体比の範囲に含まれる資料群（A 群）、哺乳類よりも低い資料群（B 群）、それらの資料群よりさらに値の低い資料群（C 群）が認められた。この結果は A 群が周年長江下流域周辺に生息した個体、C 群が初年に繁殖地から飛来した個体、B 群が何度か渡りをした個体と解釈できた。

## B（公募・覚張）

### ・同位体化学的手法に基づく新石器時代の長江下流域におけるヒトの移動性復元

広富林遺跡出土人骨 69 点から歯エナメル質粉末の分析を通じて、広富林の良渚文化期及びスウタク文化期で女性のみが移入者であることが示されてきたが、場所が大きく異なるものの良渚遺跡の良渚文化期でも女性のみが移入個体であった。この様に、約 5000 年以上前の女性が選択的に移入していたという科学的なデータに基づいた証拠は、世界においても最古の事例と言え、極めて重要な発見と言える。さらに、歯エナメル質の酸素・炭素同位体比を測定し、酸素同位体比が極めて低く、黄河以北の文化圏から直接的にヒトが移入してきている可能性が示された。ストロンチウム・酸素・炭素同位体比の結果は、遠距離地域出身の人が、直接的に長江下流域に移動し、移動した地で亡くなったというライフヒストリーを表している。従来の考古学では、物の流れでは直接的に遠方からの移入を示すことができていなかったが、直接的にヒトの長距離移動を復元した例は、東アジアにおいて本研究が初出となった。

## B（公募・大川）

### ・古代長江下流域における開発空間の歴史的考察

本研究では、文献記載と現地調査を融合させることにより、新石器～明清期に至る長江下流の水利・農業開発について、長期時間軸のなかで分析を行った（表 1）。その結果、長江下流・新石遺跡で発見・確認されている水利・稲作に関する様々な技術（防洪技術・低湿地における農業

表 1 長江下流水利調査

技術) は、後世における中国南方の水利・稲作技術と関連性を有するものであった。本研究は、長江下流の稲作文明が他地域や後世へ及ぼした影響力という側面において、当該学術領域（総合稲作文明

	水利施設の名称	創建～消滅	所在地	立地環境	類型
①	南湖・西陰大塘	2C	浙江省余杭市	山麓平野	II
②	鑑湖 葛山・回涌湖堤防	2～15C	浙江省紹興市	山麓の紹興平野南部	II I
③	夏蓋湖	9C～19C	浙江省紹興市	上虞平原北部	II
④	古海塘	8C	浙江省寧波市・紹興市	旧海岸線	
⑤	它山堰・関連施設	8C～	浙江省寧波市	四明山山麓	
⑥	広徳湖	4C～12C	浙江省寧波市	四明山山麓平野	II
⑦	東銭湖	8C	浙江省寧波市	青山の山中	
⑧	練湖	3C～19C	江蘇省丹陽市	丹陽西北の平原窪地	II
⑨	赤山塘	3C～	江蘇省句容市	句容南の窪地	II
⑩	楊園村の圩田	不明	浙江省嘉興市桐郷	太湖南岸微高地	
⑪	史河流域 ため池灌漑網	伝・BC7C～	河南省固陽市	淮河の南の平原	

※類型 I 谷締切型 II 山麓付近平原窪地築堤型

学)の研究課題に貢献することができた。

#### B (公募・神谷)

・中国の新石器時代に出土した漆遺物を対象とする自然科学的検討と工芸技術史の融合  
河姆渡文化期の田螺山遺跡、良渚文化期の卞家山遺跡・鐘家港遺跡からの木胎漆器からは現在の中国の漆器製作で用いられている *Toxicodendron vernicifluum* の主成分由来の熱分解生成物は検出されず、*Toxicodendron succedanea* の主成分に由来する熱分解生成物が検出されたことといえる。これまでの中国漆器の科学的な研究は少ない一方で、至極当然の事実として、ウルシオールを主成分とする漆樹が利用されていると考えられてきた。しかし Py-GC/MS の結果、ラッコール由来の熱分解生成物を確認する世界で初めての成果となった。これは漆樹の起源をめぐる日本考古学の論争にも大きな課題を投げかけるものであり、より多くの調査事例を増やしていく必要がある。



図 10 内部に黒色付着物のある土器

#### B (公募・山本)

##### ・長鎖脂肪酸の同位体比を用いた完新世長江下流域の乾湿および植生変動の復元

田螺山遺跡でボーリングにより得られた堆積物コアに含まれる長鎖脂肪酸の炭素と水素の安定同位体組成 ( $\delta^{13}\text{C}$  および  $\delta\text{D}$ ) を分析することにより、9000 年前から 5000 年前までの田螺山遺跡の古気候変動・C3/C4 植物植生比の変化を復元した。コアの下部 (9000 年前~7000 年前) は海成粘土層からなり、上部 (7000 年前~6000 年前) は下部水田土壌 (7000 年前~6400 年前)、海成~汽水性泥層 (6400 年前~6300 年前)、上部水田土壌 (6300 年前~5000 年前) からなる。コアの下部から上部まで計 48 試料について脂質の抽出、脂肪酸の分離・精製・誘導體化、ガスクロマトグラフ同位体比質量分析計による  $\delta^{13}\text{C}$  および  $\delta\text{D}$  の測定を行った。脂肪酸は強い偶数炭素優位性を示し、植物の葉ワックスに由来することが示された。

#### B (公募・江田)

##### ・稲作農耕社会の発展を背景とした家禽利用の変化の解明

1. 田螺山遺跡における鳥類利用の時代的変遷を明らかにするために、T406 の 4 層~8 層出土の鳥骨約 3000 点を調査した。その結果、マガモ属とスズガモ属を含むカモ亜科が同定破片数の 61.4% で最も多く、これにクイナ科が 24.6%、ガン族が 7.4% で続いた。ニワトリを含む可能性があるキジ科は 0.2% の出土に留まった。2. ガン族の骨を対象とした酸素同位体比分析を田螺山遺跡の 8 層~3 層出土資料を対象に実施し、現地生まれのガン族の出現頻度の層位間比較をおこなった (図 11)。その結果、現地生まれと考えられる資

料は8層～6層に限定して出現し、より上層には含まれないことが明らかになった。3. Log Size Index (LSI) を用いてガン族の骨のサイズを比較した。その結果、酸素同位体分析で現地生まれと推定された資料はヒシクイ、サカツラガン、ハイイロガンと程度の大型で、さらにはかなり均質性が高いことが明らかになった。

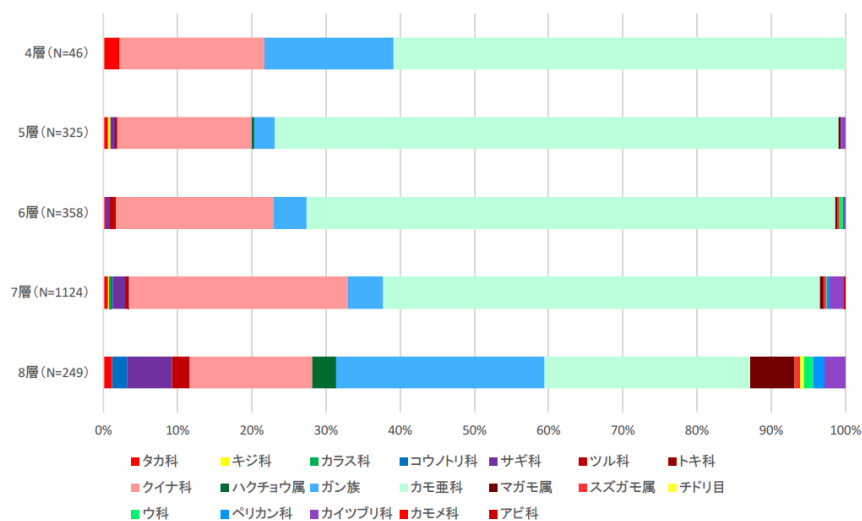


図 11 田螺山遺跡出土鳥類の層別別出土量 (同定破片)

## B (公募・山岸)

### ・中国文明構築に関与した水生作物の人為淘汰に関する研究

本研究では、まず混乱しているヒシ属植物の系統関係を新たに遺伝学的手法で再度検証するとともに、栽培化された大型ヒシ（トウビシ）の起源や形態的特徴について明らかにした。まず、新たに開発された葉緑体 DNA マーカーを利用した解析を試みた。主に試料の採集が容易な日本産の野生種と栽培種合わせて約 30 集団を対象に、これらの試料を利用して分子系統解析を行った。結果、種間の大まかな系統関係が明らかになるとともにトウビシは日本産種の中では野生種オニビシと遺伝的に近似しており、このことから中国においても同様にオニビシを改良した可能性が示された。さらに種内の系統関係、特にオニビシとトウビシの詳細な系統関係を明らかにするために MIG-seq 法を用いたゲノムワイドな多型解析を行った。その結果、ヒシ、オニビシおよびトウビシの種内系統を明らかにした。オニビシは遺伝的にいくつかのグループに分かれ、そのうち 1 つの系統からトウビシが派生していることが明らかとなった。

## B (公募・久保田)

### ・墓からみた良渚文化の社会構造研究

中国新石器時代後期の長江下流域において、高度に社会が複雑化したとされる良渚文化の階層構造について、墓の網羅的なデータベースからその詳細を解明した。良渚文化では南向きの頭位が採られ、墓壙の規模や葬具、副葬品の数量やその内容により階層表示が行われた。特に副葬品の内容は玉器や漆器、土器の双鼻壺などが顕著にその傾向を示しており、大型墓以外にも及ぶ明確な副葬基準が存在した可能性が高いと考えた。良渚文化の標式遺跡である良渚遺跡群は、2019 年に世界文化遺産にも登録された世界的に注目を集める

遺跡である。しかし、これまでの研究では、大型墓という一部の社会階層のみに注目が集まり、社会全体の構造が理解されていなかった。本研究では墓に注目し、良渚文化全体を包括する社会階層の一端の解明に成功した。

#### B (公募・松永)

##### ・中国と日本の先史時代における編物の変遷の比較考古学的研究

浙江省・河南省・河南省・台湾において出土編物資料・民族編物資料を実見・観察した。良渚遺址考古与保護中心を基点に、良渚文化期の編物等を再観察し、特に鐘家港遺跡から出土した編物については3Dスキャンを実施した(図12)。また、鳥取県において弥生時代編物の実見・観察・記録を実施した。

巻き上げ編みの編物や箕といった弥生時代に顕在化する編物の実物を確認しながら、それぞれ3Dスキャンも実施し、稲作が波及した時代における日本の編物の特徴を捉えた。中国と日本における先史時代の各種編物資料を多角的に比較検討し、特に稲作に関わると考えられるもの(箕および巻き上げ編みの編物等)を取り上げ、その変遷から稲作および文明形成にアプローチした。



図12 鐘家港遺跡出土箕状編物

#### B (公募・西内)

##### ・高感度質量分析計を用いた遺跡出土品のメタボローム解析による多様な食品利用の復元

中国の田螺山遺跡等で出土した植物遺体及び土器付着物について、イネ果実(炭化米)1粒程度のサンプル量で代謝物の分析を行う、メタボロミクスの実験系の構築を目指した。前年度から進めていた代謝物の抽出溶媒とUPLCによる分析条件の検討をさらに進め、中国で出土したイネ、ヒシ、ドングリの果実を用いて、破碎後にメタノールを溶媒として抽出を行い、親水性化合物も同定可能なHILICカラムを用いて、LC-MSによる分析を行った。分析の結果、ヒシやドングリでは、200種以上の代謝物が同定されたが、微生物由来と思われる代謝物も複数見られた。一方、イネで検出された代謝物は100種以下で、イネと他の2種で共通して検出された代謝物も少なかったが、イネのみで検出された代謝物には、脂肪酸や芳香族化合物等が見られた。ドングリでは、フィトセラミドとその分解産物などが特異的に検出された。ヒシのみに見られた代謝物には、アミノ酸類縁体や芳香族化合物等が含まれていた。

## B (公募・覚張)

### ・ I o T技術を用いた超小型歯エナメル質自動前処理装置の開発とその応用

遺跡出土動物骨の歯エナメル質に含まれる元素濃度や同位体情報は、動物の出生地や移動履歴など、多様な生態情報となりえる。近年、遺跡出土人骨のストロンチウム(Sr)同位体比に基づく人の移動復元に関する研究が精力的に進められており、世界各地の考古学研究に応用されてきた。Sr 精製装置の流路部分における調整と、装置操作のための GUI プログラムの開発を進めた。この装置を用いて、遺跡出土の歯エナメル質の前処理を実施し、Sr 精製物を得た。従来法の自重落下タイプのアフィニティクロマトグラフィーよりも迅速に前処理が可能となり、現地における多検体の Sr 精製が可能になる見通しがついた。

Sr 自動化装置の開発したことで、分析が制度上の問題で困難な地域においても、Sr 同位体分析やその他の同位体分析が可能になる。Sr 同位体分析を推進することで、新しい手法を取り入れた考古学研究を推進することが可能になると期待される。

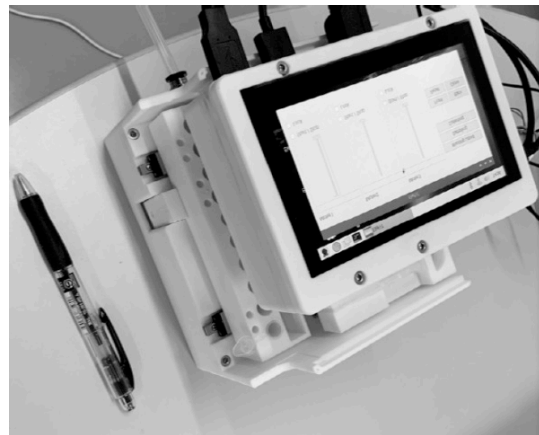


図 13 携帯型 Sr 前処理装置

## B (公募・高棕)

### ・ 中国新石器時代集団の四肢骨の形態解析に基づく初期稲作農耕文化の実態解明

本研究は、江蘇省興化県蒋庄遺跡出土の新石器時代遺跡から出土した人骨の整理・調査をおこない、四肢骨の形態解析から当該集団の系統関係の解明と当時の活動様式を復元すること、東アジアにおける水稻農耕がヒトに与えた影響を解明することを目的とする。四肢骨の形態解析の結果、蒋庄集団は大腿骨の柱状性、脛骨の扁平性が弱いことが明らかとなった。大腿骨の柱状性とは大腿骨の後面の粗線と呼ばれる部分が隆起し、断面が柱状を呈する状態を言う。また、脛骨の扁平性とは、骨体の断面が前後に長く扁平を呈するものである。これらは遊動性の高い生業をおこなう集団にみられ、日本列島においては縄文時代の人々に特徴的な形質と言われている。蒋庄集団の四肢骨の形態解析の結果は、水稻農耕が定着し、定住性が高まっていることを示している。



図 14 分析対象遺跡の分布